

令和4年度(2022年度)

日野市環境基本条例第 18 条に基づく年次報告書

日野市環境白書



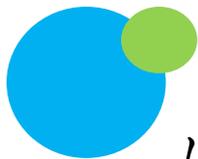
日野市

日野市気候非常事態宣言ポスター(表紙の絵)

日野市は、2022年11月に発出した「日野市気候非常事態宣言」を市民へ周知するため、日野市内の4駅（JR東日本の日野駅・豊田駅、多摩モノレールの高幡不動駅、京王線の高幡不動駅）に、啓発ポスターを掲示しました。

ポスターのデザインとして、日本の平均気温の変化を可視化した「気候ストライプ」を採用しました。ストライプは、日本の年間平均気温を基準に、平年よりも高ければ赤、低ければ青というように、温度の高低を色の濃さで示しています。1990年以降は、平均気温から下がることはほとんどなく、平均気温よりも高いことを示す「赤色」が濃い傾向となっています。

気温の変化、地球温暖化の移り変わりイメージ、気候市民会議への取組む決意を示したこのポスターを、今年の表紙として選びました。



はじめに

日野市は令和4年に「日野市気候非常事態宣言」を発出しました。この宣言では、地球が温暖化による気候変動により深刻な影響を受け、すべての生き物の生息環境として危機的な状況にあること、また、人間による影響がすべてなくなったとしても、温暖化は止まらないことを明らかにし、私たちが更なる影響を小さくすることができるかどうかの分岐点に立っているという危機感を表しています。

「日野市気候非常事態宣言」の中では、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、持続可能な未来を実現する取り組みとして、

- 1.あらゆる機会を利用し、気候危機が非常事態といえる段階まで達していることを広く知らせ、認識の共有を図ります
- 2.二酸化炭素に代表される温室効果ガスの排出量削減を加速化するため、市所有施設における再生可能エネルギー等の積極的な導入・活用を推進します
- 3.気候変動について市民・地域で学び考える機会を設け、諸力融合によって地球温暖化阻止の対策へ挑みます

以上3つの方針を掲げました。

令和5年度は、「気候非常事態」と言える現状に関して認識の共有を図るとともに、諸力融合によって地球温暖化阻止に挑むひとつの試みとして「日野市気候市民会議」を開催します。気候市民会議の特徴に、「新しい民主主義」として注目されている“ミニパブリックス”が挙げられます。これは、社会の縮図となるように無作為抽出した市民にバランスの取れた情報提供をすることで、すべての人々の生活に影響がある気候変動について熟議を保障し、市民参画の色濃い政策提言へ繋げていくものです。この意義を踏まえて、温暖化対策として私たちに何ができるのか、日野市という地域で、行政や企業・団体、市民がそれぞれ“自分たちには何ができるか”、“自分ごととして取り組むことのできる行動とは何か”を考え話し合います。

市民の皆様が環境問題への関心は日々高まっていると感じております。日野市として何をしているのか、どんな状況にあるのか、そうしたことに関心を持つ方が増えていることは対策へ取り組む一歩となります。一方で、「日野市気候非常事態宣言」の中で取り上げたように、一刻も早く具体的な対策に取り組まなければならない危機であることも確かです。この令和4年度の日野市の環境に関わる状況や環境施策の進捗状況等をまとめたものである本書「日野市環境白書」を通して現状を認識し、皆様と共有していきたいと考えております。

この環境白書が市民の皆様をはじめ、地域で活動する方々の環境問題への関心を益々高め、また、地域の状況や課題を共有し、共に次世代に引き継ぐ持続可能な環境づくりの取り組みの一助になれば幸いです。



令和5年9月

日野市長 大坪冬彦

日野市の概況

位置と面積

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、都心から西に約35km にあります。東西 7.59km、南北 5.85km で、東西にやや広がった形をしており、面積は 27.55km²です。

地形

日野市の地形は北西部の日野台地、南部に位置する多摩丘陵、多摩川と浅川の周辺に広がる沖積地(低地)、日野台地と沖積地の境界である崖線(段丘崖)、多摩川と浅川に代表される河川の 5 つに大きく分けられます。このように様々なタイプの地形があることが日野市の特徴であり、環境的な豊かさの基盤となっています。

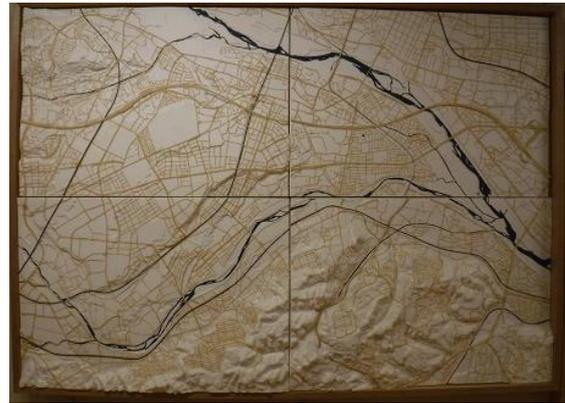


図1 日野市全域立体地図
(実践女子大学空間デザイン研究室制作
日野市立カワセミハウス所蔵)

人口

日野市の人口は昭和 30 年代から昭和 60 年代にかけて急増しており、東京都全体の爆発的人口増加の受け皿となっていました。1990 年代以降は人口の増加は緩やかになったものの依然として増加傾向で推移し、令和 4 年(2022 年)4 月 1 日の時点で人口は 187,060 人です。

現在の日野市の人口は微増傾向ですが、令和 7 年(2025 年)をピークに減少局面に入ることが予想されています。



図2 日野市地図
(C)2017 PASCO CORPORATION. (C)2017 INCREMENT P CORPORATION.

いかなる形式においても著作権者に無断でこの地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。

日野市環境白書の位置付け

平成 7 年(1995 年)に、良好で快適な環境を確保するとともに、環境負荷の少ない日野市を作り上げていくため、市民の直接請求により日野市環境基本条例が制定されました。また平成 11 年(1999 年)には、環境の保全等に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、日野市環境基本条例の第 9 条に基づいて、日野市環境基本計画が策定されました。日野市環境基本計画は、その後 2 度の改定を経て、現在は第 3 次日野市環境基本計画(令和 4 年 4 月 1 日改定)が施行されています。環境基本計画のもと、実施される日野市の環境の保全等のための取組みの状況・実績は日野市環境基本条例第 18 条に基づき「日野市環境白書」として環境審議会での審議、議会の承認を経て、毎年公表しています。

日野市環境基本条例(抜粋)

<前文>

私たちは、豊かな自然の恵みを受けて、生命の糧を与えられてきた。現代社会において、私たちは、大量生産・大量消費の社会システムの中で、物質的に豊かで便利な暮らしを享受する一方、自然環境の消失や資源とエネルギーの限りない消費と多量の廃棄を生みだしてきた。このような生産と生活の在り方は、地球規模での環境破壊をもたらしている。

日野市民は、野生生物が棲み、水を育む森林、暮らしに潤いをもたらす川、農地や崖線の緑などの自然や、それらによって培われた歴史的・文化的環境を祖先から受け継いできた。

このような環境を私たちの世代限りで終わらせることなく、次の世代に引き継いでいかなければならない。

私たちは、これまでの生産と生活を見直し、自然を育み、環境保全型のまちを創り出すとともに、持続可能な社会への展望を見いだすべきときにきている。

このような認識の下に、私たちは、日野市、日野市民及び事業者の責務と役割を明らかにし、良好で快適な環境を確保するとともに、環境への負荷の少ない日野市を創りあげていくために、この条例を制定する。

<第 9 条>

市長は、環境の保全等に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、日野市環境基本計画(以下「環境基本計画」という。)を策定しなければならない。

<第 18 条>

市長は、毎年、議会に、環境の保全等のために市が実施した事業の概要に、日野市環境審議会の意見を付けて、報告書を提出しなければならない。

令和4年度(2022年度)日野市環境白書

— 目次 —

- ・はじめに
- ・日野市の概況
- ・日野市環境白書の位置付け

1	令和4年度の日野市の環境に関するトピックス	1
	(1)気候非常事態宣言を発出しました	1
	(2)ウォータースタンド株式会社とプラスチックごみ削減の推進に係る協定を締結しました	2
	(3)市の事務事業における主要なエネルギー等の使用量の変化	3
2	第3次日野市環境基本計画に基づく取組状況	4
	気候変動分野	5
	みどり分野	10
	水分野	18
	生きもの分野	26
	ごみ分野	35
	生活環境分野	44
3	市民・地域の環境活動紹介	54
4	環境関連決算額(令和3年度)	55
5	環境審議会の意見	59
6	データ集	61
	付表 図表出典一覧	84



1 令和4年度(2022年度)の日野市の環境に関するトピックス

令和4年度(2022年度)に実施した環境に関する取り組みや出来事の中から、注目すべきトピックスを取り上げました。

(1) 気候非常事態宣言を発出しました

今、私たちが暮らす地球は、温暖化により気候変動の深刻な影響を受け、全ての生き物の生息環境として危機的な状況にあります。

その温暖化は、IPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)が令和5年3月20日に公表した第6次評価報告書の統合報告書により、「私たち人間の活動が原因であり、疑う余地がない」とまで報告されました。たとえ今すぐに、人間による影響がすべてなくなったとしても、今までの積み重ねによる温暖化は止まることはありません。これからの未来を生きる人すべては、温暖化の影響に対して、どのように対応していくか、どのように影響を少なくするか考えていかなければならないのです。

そうした地球温暖化・気候変動の現状を考え、自分たちにどのようなことができるか、どういったことに取り組んでいかなければならないのかを考える「日野市環境フェア」を実施いたしました。

今回の環境フェアは、環境啓発映画「マイクロプラスチック・ストーリー」や明星大学 亀卦川 幸浩教授の講演、気候変動・脱炭素に向けた三者対談といった、気候変動・地球温暖化問題をどのようにして学び、考え、取り組むかを中心に、釣りゲームやワークショップを通したSDGsや水とみどり、ごみ問題といった身近な環境問題についても学習する機会となりました。

120名を超える参加者が地球環境問題を学び、地球温暖化への意識を高め、「日野市環境フェア」内で発出した「気候非常事態宣言」により、今こそ行動を起こさなければならない意識が創出されました。



図3 日野市環境フェアでの気候非常事態宣言
(2022年11月6日)

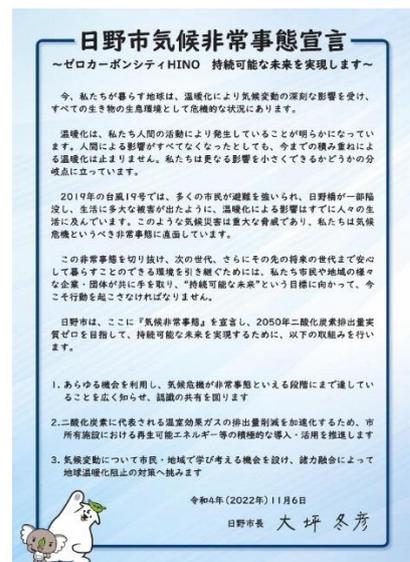


図4 日野市気候非常事態宣言

(2) ウォータースタンド株式会社とプラスチックごみ削減の推進に係る協定を締結しました

日野市は、令和4年6月23日に、ウォータースタンド株式会社と「プラスチックごみ削減の推進に係る協定」及び「ナノスタンド設置に関する覚書」を締結いたしました。

日野市はこれまで、令和2年に「プラスチック・スマート宣言」を行うなど、プラスチックごみ削減に向けた取り組みを推進してきました。一方、ウォータースタンド株式会社も使い捨てプラスチックボトル30億本削減を目標に掲げ、全国の地方公共団体・教育委員会と「ボトルフリープロジェクト」を推進しています。この2者が連携・協力し、ワンウェイプラスチック製品の使用を抑制し、マイクロプラスチックごみによる海洋汚染の防止、ごみの減量やこれに伴う二酸化炭素削減・地球温暖化対策など様々な問題・課題に対する取り組みの強化を図っていきます。

「ナノスタンド設置に関する覚書」に基づき、常温・マイボトル使用型のウォータースタンドを市内各所に設置しております。市内を歩く際は、是非、マイボトルをお持ちの上、ウォータースタンドをご利用ください。

表1 ナノスタンド(ウォータースタンド)設置個所一覧

設置個所	所在地	電話番号
日野市役所	神明 1-12-1	042-585-1111(代表)
生活・保健センター	日野本町 1-6-2	042-581-6500
クリーンセンター	石田 1-210-2	042-581-0444
カワセミハウス	東豊田 3-26-1	042-581-1164
日野図書館	日野本町 7-5-14	042-584-0467
百草図書館	百草 204-1	042-594-4646
中央公民館	日野本町 7-5-23	042-581-7580
日野市発達教育・支援センター	旭が丘 2-42-8	042-589-8877
日野市社会福祉協議会	日野本町 7-5-23	042-582-2319
ひの社会教育センター	多摩平 3-1-13	042-582-3136
湯沢福祉センター	程久保 873	042-592-4125
七生公会堂	三沢 3-50-1	042-593-2911



図5 ウォータースタンド



図6 協定締結式
(2022年6月23日)

(3) 市の事務事業における主要なエネルギー等の使用量の変化

日野市では、市自身の事務事業における環境への影響を理解し、それを管理するための手法を確立するため環境マネジメントシステム「ひのエコ」を採用し、環境負荷低減と環境保全への積極的な貢献に取り組んでいます。昨年度までは、日野市役所本庁舎の主要なエネルギー等の使用量を報告しておりましたが、市の事務事業における環境行動への結果を見える化するため、今回より市全体の主要なエネルギー等の使用量を報告する形式へ変更いたしました。

市の事業を実施する中で、環境への負荷を減らすため、様々な工夫を行い、省エネ・省資源に努めています。取組による近年の電気・ガス・水道の使用量の推移は以下のとおりです。



図7 日野市役所全体の電気使用量(千kWh)

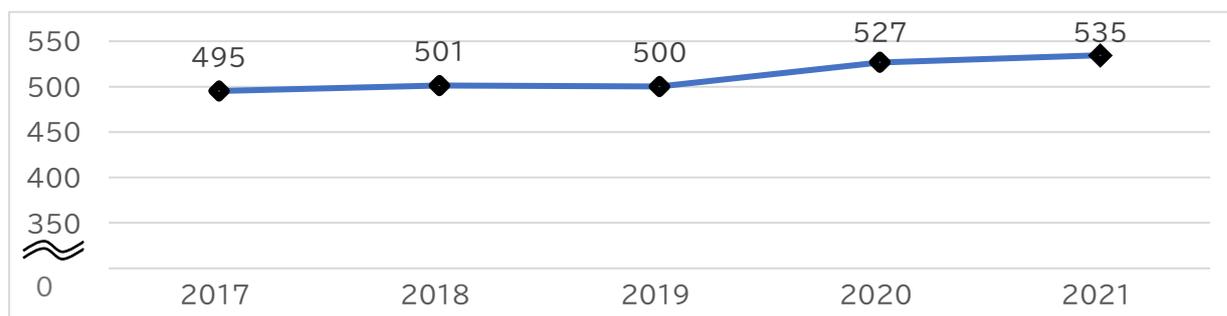


図8 日野市役所全体のガス使用量(千m³)

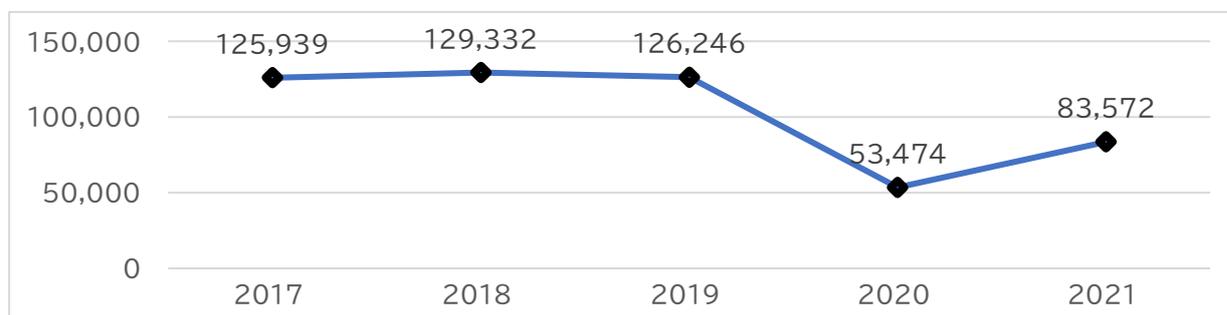


図9 日野市役所全体の水道使用量(m³)

ガスの増加は、新型コロナウイルス対応のため、ガスによる冷暖房使用の影響。
水道の変化は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、プールの開放を停止していた影響が大きいと考えられます。

第3次日野市環境基本計画では、望ましい環境像を「環境に関心を持ち行動する人を育て受け継いだ自然環境を次の世代につなぐまち」としています。その望ましい姿に向かって日野市の環境に関するあらゆる施策は実行されています。望ましい環境・基本目標の実現に向け、環境基本計画では施策の方向を示しています。この章では施策の方向に沿って、各実行計画で実施した事業、これからの取組を報告します。取組進捗状況目安となる代表的な指標を各分野に掲載していますので、ご参照ください。

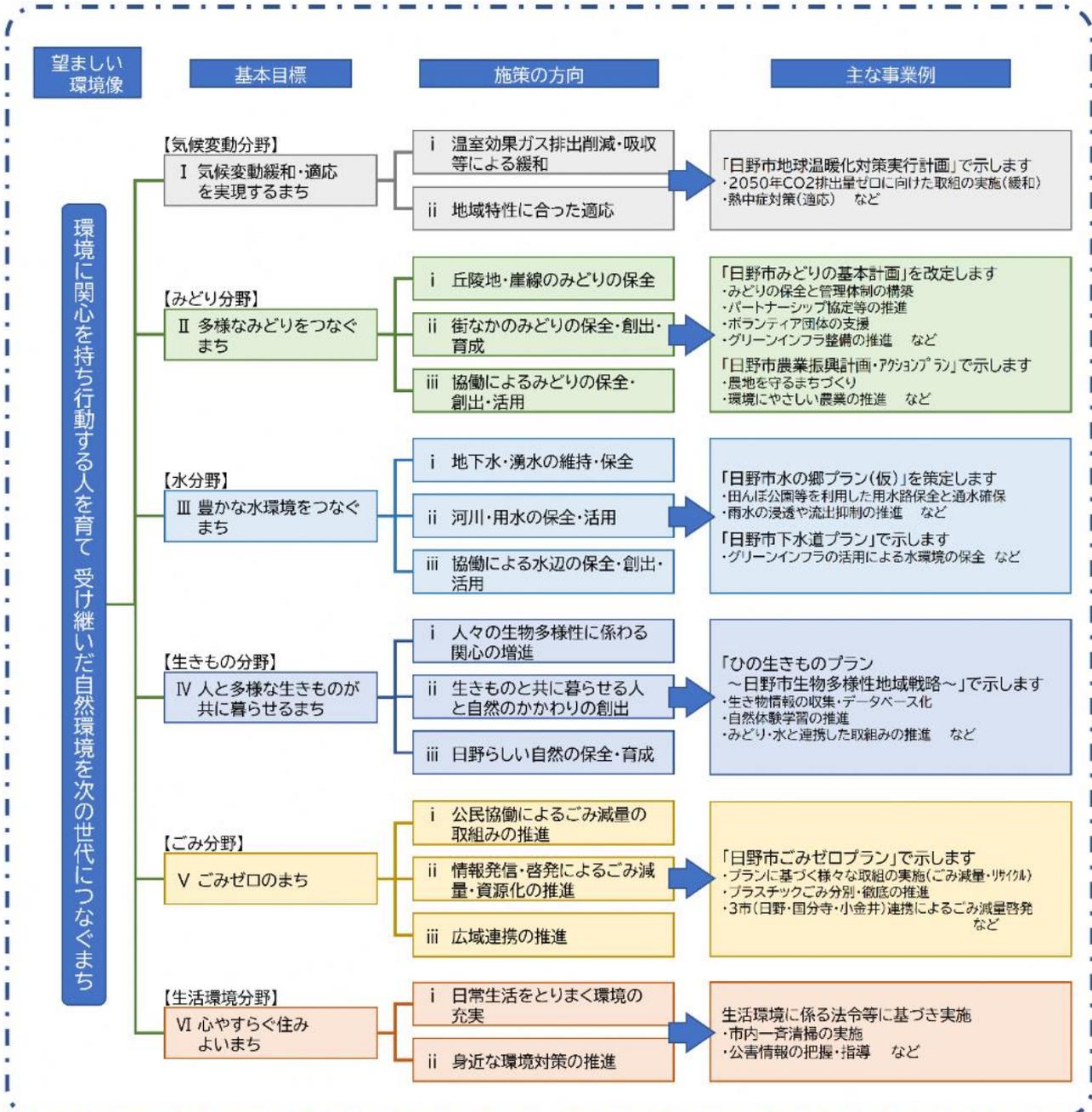


図10 第3次日野市環境基本計画 施策体系図

気候変動分野

< 目 標 >

気候変動緩和・適応を実現するまち

令和 3 年(2021 年)の IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が作成した報告書によると、「人間の影響が大气・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない」とされ、地球温暖化の原因が人間活動であることが明らかにされました。急激な気候変動の進行から、「気候危機」状態にあるといわれる今、地球温暖化が与える未来への影響を可能な限り軽減し、また、進行する温暖化に適切に適応することが求められています。日野市は、一人ひとりの行動の積み重ねにより、令和 32 年(2050 年)までに二酸化炭素排出量実質ゼロの実現を目指します。

「気候変動緩和・適応を実現するまち」の実現に向けた取組み

i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和

地球温暖化による気温の上昇や急な大雨などの影響によって、快適な生活を享受できる環境が脅かされつつあります。このような影響をできる限り少なく抑えるため、ふだん(普段・不断)の行動からエネルギー消費の削減や温室効果ガスの排出削減に取り組まねばなりません。こうした取組みを推進するとともに必要な啓発・情報発信に積極的に取り組み令和 32 年(2050 年)二酸化炭素排出量実質ゼロ、令和 12 年(2030 年)同排出量 46%以上(日野市排出量平成 17 年(2005 年)比)削減を目指します。

ii 地域特性に合った適応

気候変動の影響に対処するため、温室効果ガスの排出の抑制等を行う緩和だけでなく、既に現れている影響や中長期的に避けられない影響を回避・軽減する適応を進めることが求められています。

日野市は、身近な里山などみどり、多摩川、浅川等の河川や用水路といった水辺などの自然環境に恵まれています。こうした自然環境は恵みをもたらす一方で、温暖化に伴う気候変動の影響(集中豪雨など)を受けると、土砂災害や河川の氾濫による洪水といった災害をもたらすこともあります。このような日野市をとりまく自然環境について十分に考慮し、地域に合った「適応」の仕組みづくりに取り組みます。

代表的なデータ

CO2 排出量

目標 2005年(797kt-CO₂)比 46%削減 → 2020 年度 546kt-CO₂

※2005 年比 31.4%の削減

i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和

- ①省エネの推進・啓発
- ②再生可能エネルギーの普及促進

関連計画 第4次日野市地球温暖化対策実行計画

目標 2030年二酸化炭素排出量46%削減、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

令和4年度の取組み

- ・令和4年度に「気候非常事態宣言」を発出するとともに、気候変動へ取組む地域のパートナーシップを市内・都内12団体へ呼びかけ、環境フェアを開催した
- ・気候変動シンポジウムを開催し、気候変動・地球温暖化問題への普及啓発を実施（参加者約100名）
- ・小学生・保護者に向けてアンケート（エコキング）を実施し、啓発を実施（詳細は下記）
夏季（地球温暖化問題への関心度合調査） 冬季（太陽光発電への関心・設置率調査）

令和4年度の課題

- ・アンケートでは、有効回答数5,793人中4,675人(80.7%)が「地球温暖化の影響を感じている」と回答しているが、冬季に実施した太陽光発電設置率のアンケートにて設置率が14.4%にとどまるなど具体的な行動に結びついていない



令和5年度の取組み

- ・令和5年8月より、日野市気候市民会議を開催し、地域脱炭素化・気候変動（緩和・適応）の具体施策案を日野市への提言として取りまとめる（日野市気候市民会議の流れは下記イメージを参照）
- ・アンケートを再度実施し、太陽光発電設置率が上昇しているか引き続き確認

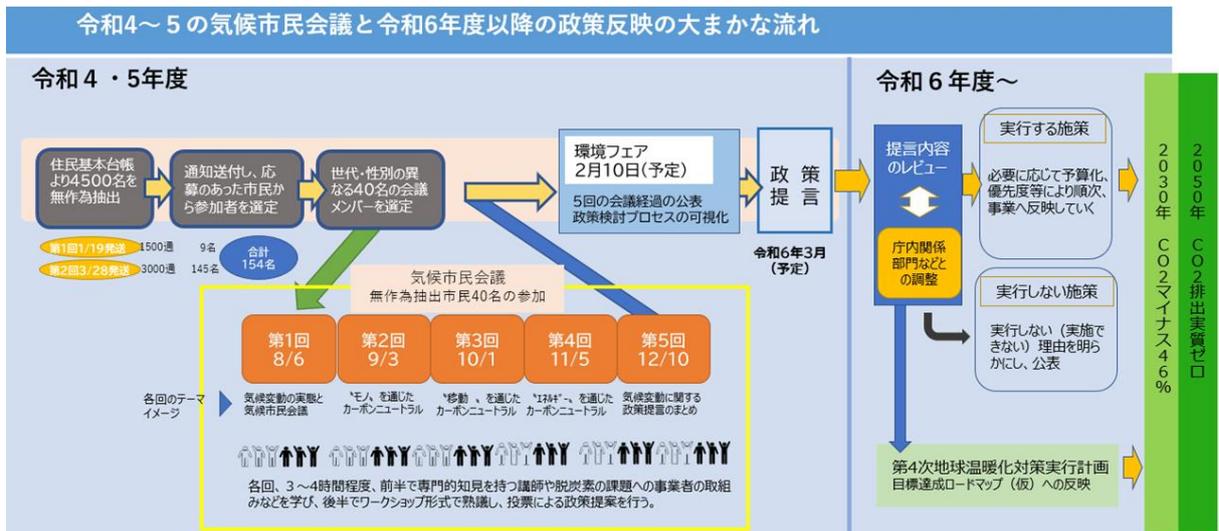


図11 気候市民会議の流れ

i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和

③公共交通の利用促進

関連計画 第4次日野市地球温暖化対策実行計画

目標 2030年二酸化炭素排出量46%削減、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

令和4年度の実施

- ・日野市ホームページにて、「知っていますか？地球温暖化」の内容の一部として周知
- ・「エコドライブ10のすすめ」として日野市ホームページにて、エコドライブの実施方法を周知

令和4年度の課題

- ・市HPにて周知しているが、内容までたどり着いている市民が少ない



令和5年度の実施

- ・日野市環境フェア等イベントにて、CO₂排出量の少ない交通手段(公共交通機関等)の周知
- ・広報等でのエコドライブ・公共交通利用促進の周知

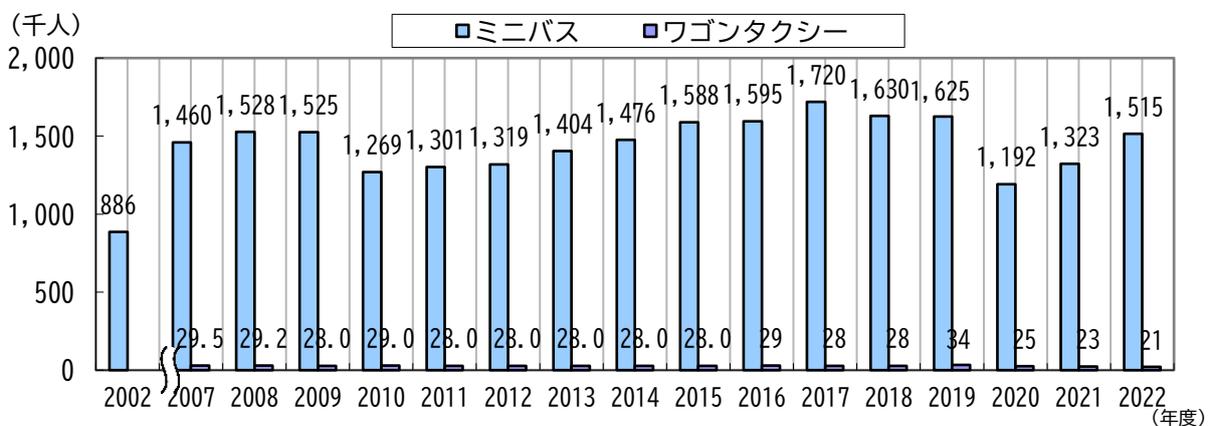


図12 ミニバス・ワゴンタクシー年間利用者

2020年・2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によってミニバスの利用者が減少しましたが、2022年はそれ以前と同等程度に回復しました。引き続き、公共交通の利用促進を促します。

i 温室効果ガス排出削減・吸収等による緩和

④温室効果ガスの吸収

関連計画 第4次日野市地球温暖化対策実行計画

目標 2030年二酸化炭素排出量46%削減、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

令和4年度の取組み

・市内小中学校9校で緑のカーテン、小中学校3校で校庭芝生化、小学校1校で屋上緑化を実施

令和4年度の課題

・市内小中学校以外での吸収源がない

令和5年度の取組み

- ・身近で出来る温室効果ガスの削減方法の一環として、グリーンカーテンなどを日野市HPや日野市環境フェアなどで周知
- ・公共施設での緑のカーテン実施数が増加するよう呼びかけ



図13 環境省グリーンカーテンプロジェクト啓発パンフレット

緑のカーテン(グリーンカーテン)

窓や壁面を植物で覆うことで・窓からの直射日光を防ぐ・建物の表面温度を抑える等の効果が期待される夏の省エネルギー対策です。

ii 地域特性に合った適応

- ①自然災害への適応策
- ②健康にかかわる適応策
- ③生活にかかわる適応策

関連計画 第4次日野市地球温暖化対策実行計画

目標 2030年二酸化炭素排出量46%削減、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロ

令和4年度の取組み

- ・市HPで「知っていますか？地球温暖化」として災害・地球温暖化・気候変動問題を掲載、周知
- ・環境省やA-PLATなど専門機関の熱中症・スポーツに関する情報を環境フェアにて周知

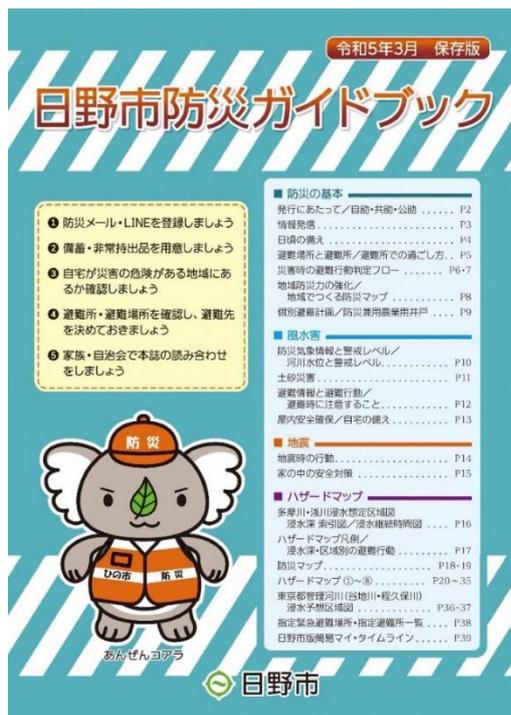
令和4年度の課題

- ・自然災害と気候変動の関連性が市民へ十分周知できていない



令和5年度の取組み

- ・近年の災害情報をもとに自然災害への備えの重要性を啓発(図14参照)
- ・熱中症、感染症に関する情報を日野市HP上に掲載



日野市防災ガイドブック
(令和5年3月作成)

防災について必要最低限の情報から風水害時の避難情報、地震時の安全対策、ハザードマップなど、防災に関する情報をまとめた1冊です。



日野市防災ガイドブック
URL

図14 日野市防災ガイドブック・URL



みどり分野



< 目 標 >

多様なみどりをつなぐまち

日野市には、身近な里山や市外まで連なる多摩丘陵など古くからのみどりや田畑のみどり、公園のみどりなど多様なみどりが多くあります。みどりは環境の保全・防災・景観・レクリエーションといった私たちにとって重要な機能を持っています。近年、こうしたみどりは、宅地開発など人々の活動により減少傾向にあります。このような状況の中にあっても、保全すべきみどりを確実に残し、適切に管理することで緑被率の著しい低下を阻止し、グリーンインフラとして積極的に活用することを目指します。そうすることで生態系を健全に保ち、地球温暖化防止にも寄与するみどりをできる限り多く将来につなぐことを目指します。

「多様なみどりをつなぐまち」の実現に向けた取組み

i 丘陵地・崖線のみどりの保全

市内には、身近な里山や、残された貴重な崖線緑地など自然に近いみどりが、今なお多く残っています。こうしたみどりの保全については、これまで取り組んできた緑地信託制度や買取、寄付による公有化を引き続き進めるとともに、広域的な視点をもって取り組みます。さらに、グリーンインフラの視点を取り入れた計画的な緑地管理、市民とのパートナーシップによる管理などにより、みどりの質の向上と機能の活用を目指します。

ii 街なかのみどりの保全・創出・育成

田や畑などの農地のみどり、公園や学校など公共施設のみどり、民家の生け垣のみどりなどの空間は、街なかにあっても動植物の貴重な生息・生育空間です。農業の支援、多様な主体と連携して市民が農地に親しむ「農のある暮らしづくり」の取組みを通し、また、農地を公園として残せる仕組みづくりなど、都市農地保全のための国や都の施策に準じた新たな取組みを市として推進し、これらの維持・保全、さらには日野の多様な地形が育み、地域に根ざした文化を通して、農の保全に取り組みます。

iii 協働によるみどりの保全・創出・活用

みどりの保全・創出の取組みは、市民や事業者そして市が、力を合わせて取り組むことが重要です。そのための仕組みや計画、環境づくりに取り組みます。併せて、みどりに関する教育の充実、スキルアップを進めるとともに、みどり保全のための人材の育成も進めます。

代表的なデータ

市民1人当たり都市公園面積

目標 約 7㎡(日野のみどりの基本計画) → 2022年度 7.16㎡

i 丘陵地・崖線のみどりの保全

①丘陵地・斜面緑地等の保全

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の取組み

- ・合計15箇所、35,430㎡の良好な民有樹林地を緑地信託制度による緑地信託地として保全管理を行い、百草地区の緑地信託地1件、約3,878㎡を寄附受領により公有地化

令和4年度の課題

- ・市内公園、緑地等のナラ枯れの被害が終息せず、ナラ枯れによる枯損木合計71本を伐採
今後の被害状況に応じた有効な対応策を検討及び実施(図15、16参照)



令和5年度の取組み

- ・緑地信託地となっている大字日野の日野緑地 1,862㎡について、日野市土地開発公社による先行取得を進め、令和6年度以降の買戻しの準備を行う
- ・未供用の緑地等の供用開始に向けた整備計画やグリーンインフラの検討を進め、今後における市民1人当たりの都市公園面積の増加を図る
- ・ナラ枯れの動向に引き続き注視し、調査を行いながら適切に対応する



図15 ナラ枯れの樹木(コナラ)



図16 委託業者によるナラ枯れ被害木伐採作業

緑地信託制度

緑地(樹林地で良好な自然的環境を形成している土地)について、所有者と土地管理の委任等の契約を結ぶ制度です。緑地の管理費用は契約者が全額負担し、固定資産税等の減免が受けられる代わりに、所有者は緑地を有償で譲る場合に市へ書面で届け出る必要があります。

i 丘陵地・崖線のみどりの保全

②里山文化の継承

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の取組み

- ・百草、倉沢地区をはじめとした合計4件のパートナーシップ協定により、およそ8haの里山などの保全管理を官民連携で行った
- ・日野緑地における良好な緑地の保全管理を推進するため、新たに「谷仲山緑地を守る会」とパートナーシップ協定を締結
- ・ボランティア団体へ資材の支給や作業の支援などを行った

令和4年度の課題

- ・ボランティア団体の高齢化や人手不足、市による新たな支援策などの構築



令和5年度の取組み

- ・南平丘陵公園において、長年にわたりボランティア活動している団体などと、新たなパートナーシップ協定の締結を協議の上、進めていく
- ・ボランティア団体の悩みや課題などを共有し、新たな支援策の検討を進める
- ・ナラ枯れの動向に引き続き注視し、調査を行いながら適切に対応する



図17 里山の保全活動

ii まちなかのみどりの保全・創出・育成

①農地の保全

関連計画 日野市農業振興計画・アクションプラン

- 目標 「都市農地の多面的機能を活かし農地を守るまちづくりを進めよう」
「学校給食に日野の農産物をもっと利用しよう(目標利用率25%)」
「援農で支える日野の農業の推進」

令和4年度の取組み

- ・都市農地貸借円滑化法による生産緑地の貸借の支援を行った
農業者による貸借 3件 3,200㎡ 法人による貸借 1件 837㎡
- ・給食野菜の運搬支援業務及び学校と生産者をつなぐコーディネート業務を実施
- ・新たな運搬支援の仕組み構築のための関係者と協議を行った
- ・援農市民養成講座「農の学校」第18期実施 14名が修了
- ・援農ボランティア 114名が45農家で援農活動実施

令和4年度の課題

- ・都市農地貸借円滑化法による生産緑地の貸借をすすめているが、農業者の理解が得られず、貸したい農業者が少ない
- ・農業者の高齢化が進む中、免許返納等もあり、各学校への農産物の運搬が困難になっている
- ・広報等で援農ボランティアを募集したが定員割れの状況



令和5年度の取組み

- ・貸出し希望農地を集約し、借用希望者とのマッチングを進める
- ・JAによる学校への納品配送支援事業開始に向けたモデル事業を実施
- ・「農の学校」第19期実施、18名が受講
- ・「農の学校」果樹コース(梨)試行実施

表2 学校給食における地元野菜等利用率

年度	2018	2019	2020	2021	2022
利用率(%)	29.8	28.1	31.8	28.3	30.6

※ 日野市食育推進計画の目標値は25%

表3 給食野菜供給農業者数

年度	2018	2019	2020	2021	2022
農業者数(人)	42	41	40	40	37

日野市食育推進計画の目標値を直近5年は達成しております。
令和5年度の日野市農業振興計画の改定をもとに、取組状況の把握を実施します。

ii まちなかのみどりの保全・創出・育成

② まちなかのみどりの創出・保全

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の取組み

- ・ウェルカムツリー15件、生垣1件の植栽申請に対し助成を行った
- ・登録されている合計109件、436,343㎡、97本の登録樹、登録樹林のうち、保全作業申請のあった10件に対し助成を行った
- ・認可済みの緑地協定5件、面積40,833.61㎡の保安全管理状況等の確認を行った

令和4年度の課題

- ・登録樹、樹林制度における保全作業申請を増加させ、登録樹木等の適正な保安全管理を推進



令和5年度の取組み

- ・登録樹、樹林制度における保全作業申請を増加させ、登録樹木等の適正な保安全管理を推進する

**日野市ウェルカムツリー等
植栽補助制度のご案内**

みどり豊かなより良いまちづくりを「緑の贈り物」で進めるため、市民のみなさんがウェルカムツリーや生け垣を植栽する場合は、市が助成の一部を補助します。

<p>ウェルカムツリーを植栽する場合 ■ウェルカムツリーとは・・・ ※制度では、次の補助対象者の方が補助金として登録して植栽申請が可能です。</p> <p>■補助対象者 市内に土地もしくは建物を所有している方、植栽を実施する権利をお持ちの方で次のいずれかの条件が当てはまる場合に補助申請が可能です。</p> <p>①日野市内への転入 ②子どもの出生 ③家屋の新築 ※マンション等の購入住宅を含む ④事業所等の新築</p>	<p>生け垣を植栽する場合 ■生け垣とは・・・ ※制度では、土木又は土木で障子が設置されている場合に限り補助申請が可能です。</p> <p>■補助対象者 市内に土地もしくは建物を所有している方、植栽を実施する権利をお持ちの方</p>
<p>■補助対象地 日野市内の土地、建物 ※山林及び河等を除く。</p> <p>■補助対象 庭木や生け垣としての植栽など。 なお、次の条件も必須となります。</p> <p>①建物の竣工に際して植栽する場合 ②屋上へ植栽する場合 ③つる性植物等をフェンスへ植栽する場合 ④樹根に害を及ぼさない場所へ植栽する場合</p> <p>■補助対象額 ウェルカムツリーまたは生け垣を植栽したときの苗木代として10,000円を限度として補助します。</p>	<p>■注 例の場合に補助対象外となります。</p> <p>①不敷地調査、関係業者等が事業として植栽する場合 ②年度中にこの事業による補助を受けている場合 ③他の制度により既に補助金の交付を受けている場合 ④国、地方公共団体等の事業の場合 ⑤公共事業の移転補償に係る場合</p>

ウェルカムツリー補助制度
緑豊かな環境づくりのため、生け垣を植栽する場合に加えて、

- ① 日野市への転入
- ② 子どもの出生
- ③ 家屋の新築
- ④ 事業所等の新築

を記念して樹木を植栽する場合に一部補助を行う制度です。

図18 日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度のご案内

iii 協働によるみどりの保全・創出・活用

① みどりに関する普及啓発

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の実施

・市民のみどりへの関心や意識の向上など、普及啓発を目的とし、自然観察会を合計8回実施
(全10回の開催日程のうち、雨天により2回中止)

令和4年度の課題

・より効果的かつ有効なみどりに関する普及啓発を推進するため、新たな施策の検討
・長年にわたり、自然観察会のメイン講師としてご貢献いただいた方が急逝されたことから、令和5年度以降に自然観察会を運営、実施するための新たな体制の構築が必要



令和5年度の実施

・7月、12月(全2回)の開催日程で外部講師による自然観察会を実施
・自然観察会の関係者と打合せ、協議を重ね、令和6年度以降に運営、実施するための新たな体制を構築
・みどりに関する普及啓発に効果的かつ有効な新たな施策の検討を行う



図19 自然観察会(12月):しめ縄づくり作業の様子



図20 自然観察会(2月):冬芽を観察している様子

iii協働によるみどりの保全・創出・活用

②協働による活動の仕組みづくり

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の実り

- ・雑木林の保全に必要な基本的な技術や知識を身につけ、日野市の雑木林を次世代へ残すための人材を育成するため、第18期 雑木林ボランティア講座を開催
(全11回の開催日程のうち、雨天により1回中止)
- ・水と緑の日野・市民ネットワーク会議などでボランティア団体との意見交換や交流を深めた

令和4年度の課題

- ・雑木林ボランティア講座の修了生など、より多くの市民のボランティア団体への加入が必要



令和5年度の実り

- ・第19期 雑木林ボランティア講座を全11回の開催日程で実施
- ・日野市における「雑木林ボランティア」として活躍する人材を育成
- ・ボランティア団体等との意見交換や交流を深め、有効な支援等を検討



図21 雑木林ボランティア講座(10月)
里山づくり講義の様子



図22 雑木林ボランティア講座(1月)
チェーンソーを使った実習の様子

iii協働によるみどりの保全・創出・活用

③広域連携事業の推進

関連計画 日野市みどりの基本計画

目標 市域面積の約33%にあたるみどりを保全、創出する
公園、緑地の整備目標量は市民1人当たり約7㎡/人とする
市民団体やボランティアをネットワーク化する組織の設立を目指す

令和4年度の実施

・多摩三浦丘陵広域連携プラットフォームの構築、運用を目指し、取組事項の検討や情報交換等の会議を行った

令和4年度の課題

・具体的な取組事項が未決定であり、費用捻出に対する各自治体の考えにも相違があることから、今後様々な調整が必要



令和5年度の実施

・多摩三浦丘陵広域連携プラットフォーム規約を作成し、取組事項の決定を目指す



多摩三浦丘陵広域連携プラットフォーム

多摩三浦丘陵を有する13自治体が連携し、地域の重要な緑と推計を「みどりはつなぎ手」という共通認識に基づき、「市民・企業・行政等の協働によって、広域的な緑や水系の保全・再生。創出・活用していくこと」を目的としています。

(相模原市、八王子市、日野市、多摩市、稲城市、町田市、川崎市、横浜市、横須賀市、鎌倉市、逗子市、葉山町、三浦市)

図 23 多摩・三浦丘陵広域連携トレイル図

水分野

< 目標 >

豊かな水環境をつなぐまち

日野市は、河川や湧水、用水など安らぎの水辺が多くある「水のまち」です。水辺には貴重な動植物が存在し、植物、昆虫、魚類など様々な生きものが生息・生育しており、美しい景観を形成しています。このような水や水辺もみどり同様減少傾向にあります。日野市の財産である水環境・水辺空間の維持・保全・創出に努め、「水の郷・日野」を将来につなぐことを目指します。

「豊かな水環境をつなぐまち」の実現に向けた取組み

i 地下水・湧水の維持・保全

市内の日野台地の崖線や多摩丘陵の裾部には多くの湧水点があり、豊かな水環境を構成しています。みどり同様このような空間は、非常に重要な環境要素であり、これらの維持・保全に取り組めます。

ii 河川・用水の保全・活用

市内には、多摩川とこれに注ぎ込む浅川、程久保川、谷地川の一級河川、さらにはこれら河川から取水する 116km に及ぶ用水路が網の目のように流れています。

長きにわたる用水路の歴史から培われた現在の水辺環境を、広く日野の水文化として発信し、その保全に取り組めます。

iii 協働による水辺の保全・創出・活用

水辺の保全・活用のためには、市民や事業者などと連携して取り組むことが不可欠です。これまでも用水組合や市民団体、ボランティアなど多様な主体と連携・協働し、水辺の保全・創出・活用に取り組んできました。こうして積み上げてきた関係や仕組みを活かし、取り組みを推進します。

また、海洋プラスチックなど広域で取り組むべき課題も見据え、流域連携による取り組みを推進するとともに次世代を担う子供たちへの啓発活動を強化・充実します。特に、市内の小中学校等の教育機関と協働し、水辺環境に興味・関心を抱いてもらえるよう取り組めます。

代表的なデータ

水辺に親しみを感じる市民

2022 年度 68.0%

下水道普及率

目標 2025 年度 97.1% → 2022 年度 96.2%
(第2次日野市下水道プラン)

i 地下水・湧水の維持・保全

①湧水・地下水の維持・保全

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 健全な水循環の構築

令和4年度の実績

・湧水量及び地下水位計測調査を継続実施した。(図24参照)

令和4年度の課題

・特になし

令和5年度の実績

・市内の水収支の実態や、重要箇所における降水量と湧水量の関係、湧水周辺の生態系などを調査。調査結果をもとに、地下水かん養、水辺の環境保全から水利用、治水までを含めた水循環に寄与する方策を検討する。

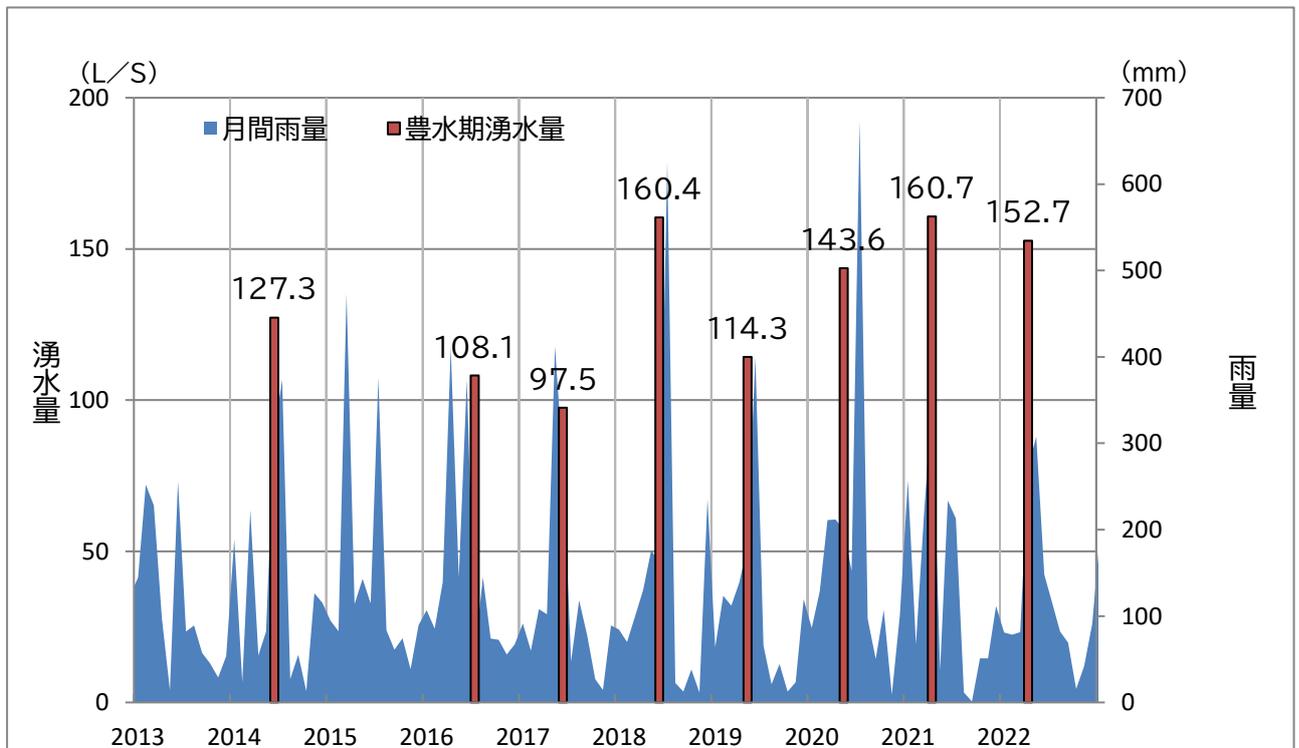


図2.4 月間雨量・豊水期湧水量

ii 河川・用水の保全・活用

① 用水の保全活用

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 健全な水循環の構築

令和4年度の実施

・用水カルテに基づき、東京都小規模土地改良事業を活用して改修を進めた

令和4年度の課題

・治水機能強化を求める沿川住民から環境に配慮した構造を採用したことに関し、理解を得るのに相当な時間を要したため、今後の住民説明の方法が課題



令和5年度の実施

・用水カルテプロジェクトによる用水路実態調査等をもとに、用水路の役割や周辺の状況に合わせた保全・改修・補修・開渠化計画の作成に向けた準備を進める



図 25 日野の用水路

ii 河川・用水の保全・活用

②河川の保全活用

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 健全な水循環の構築

令和4年度の取組み

・37団体 1,308人のボランティアの方々と多摩川・浅川クリーン作戦による多摩川・浅川の清掃を実施(図26参照)

令和4年度の課題

・ふれあい橋付近におけるバーベキュー後の不法投棄ごみ対策

令和5年度の取組み

・多摩川・浅川クリーン作戦などの実施により、河川敷の美化・保全活動を行う
・多摩川クリーン愛好会など河川敷の美化・保全活動を行なっている団体や個人への支援を行なう

多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました

令和4年4月17日(日)、緑と清流課主催多摩川・浅川クリーン作戦を実施しました。クリーン作戦は、多くの市民の方の参加を募り、行政と協力して一級河川の清掃活動をおこなう大規模なイベントです。今年も1,300人以上の方に参加いただき、多摩川並びに浅川的环境美化にご協力いただきました。今年度は昨年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止予防に配慮し、マスク着用実施時間を1時間と短縮しておこないました。また、今回は収集袋の配布を制限してプラスチックごみの削減に努めました。また、実施にあたって参加者には、活動中のマスク着用や一定のソーシャルディスタンスを心がけていただき、新型コロナウイルスの感染拡大予防に十分配慮した体制でおこないました。

日野市の一級河川を保全するためには、清掃活動による環境美化は必要不可欠です。来年度も多摩川・浅川クリーン作戦を実施したいと考えていますので、その際はご参加宜しくお願い致します。

皆様にご協力いただき集められたごみの内訳は次のとおりです。

参加団体(組)		37
参加人数(人)		1,308
収集量(kg)	可燃	580
	不燃	940
	粗大	770



多摩川・浅川クリーン作戦

多くの市民の方と行政が協力し、一級河川である多摩川と浅川の清掃活動を行う大規模なイベントです。

参加人数は毎年1,000人を超え、川的环境美化にご協力いただいています。

図26 清流ニュース vol130

ii 河川・用水の保全・活用

③水質の保全

関連計画 第2次日野市下水道プラン

目標 令和7年度までに下水道処理人口普及率97.1%、接続率98.7%とする。

令和4年度の実績

- ・汚水管整備工事 317m実施
- ・未切替者 30件への戸別訪問実施

令和4年度の課題

- ・公共下水道(汚水)未整備エリアの大部分は区画整理区域内のため、普及率を高めるためには区画整理事業の進捗状況に大きな影響を受ける



令和5年度の実績

- ・汚水管整備工事 299m実施予定
- ・未切替者への戸別訪問実施予定
- ・区画整理区域内での先行整備箇所の選定

表4 下水道普及率

年度	2018	2019	2020	2021	2022
下水道普及率	95.7%	95.9%	96.0%	96.1%	96.2%

下水道普及率とは

市の人口のうち、下水道が利用できる地域の人口

$$\text{下水道普及率} = \frac{\text{公共下水道使用可能人口}}{\text{行政人口}}$$

下水道接続率

公共下水道使用可能な地域に住んでいる人口のうち、実際に下水道を利用している人口の割合

iii 協働による水辺の保全・創出・活用

① 水辺に関する普及啓発

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 協働による水辺の保全・活用

令和4年度の実践

- ・市民、河川管理者、自治体が一体となって実施している水辺の楽校の活動において、子どもたちとの米作りを通じ、用水路の大切さを認識(図27参照)
- ・水辺のある風景日野50選ガイドツアーを実施(みずとくらす・ひのとの共催)

令和4年度の課題

- ・水辺の楽校及び水辺のある風景日野50選ガイドツアーが今後も継続実施できるような指導者の確保



令和5年度の実践

- ・用水やビオトープをはじめとする水辺に親しめる場や機会を創出するとともに、水辺の楽しさや大切さなどを伝えることのできる指導者の確保に努める



図 27 水辺の楽校での活動(田植え)

水辺の楽校

人間と環境の関わりについて理解を深め、豊かな人間性を育むために、市民団体や河川管理者、教育関係者が一体となって、地域の身近な水辺における環境学習や自然体験活動を推進しています。(日野市では潤徳、滝合小)これに限らず、水田耕作等は全小学校で実施しています。

iii 協働による水辺の保全・創出・活用

② 協働による活用の仕組みづくり

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 協働による水辺の保全・活用

令和4年度の実施

- ・用水守制度を通じ、ボランティアの方々による継続した清掃活動を実施(図28参照)
- ・日野用水クリーンデーとして、約30名のボランティアと市職員が日野用水の清掃活動を実施
- ・水辺のある風景日野50選ガイドツアーを実施(みずとくらす・ひのとの共催)

令和4年度の課題

- ・ボランティアの高齢化や担い手の確保及び用水守活動の共有



令和5年度の実施

- ・用水守制度を充実するとともに、地域や学校、用水守等が用水組合や農業者の用水管理活動を支援するための新たな検討を進める



図28 日野用水クリーンデー

日野の用水

日野市全域で複数流れている用水は約170kmに及び、最古のもので450年余り同じ場所を流れています。用水ごとに管理していますが、そのうち日野用水について年1回クリーンデーを設け、市民と市職員協働で清掃しています。

iii協働による水辺の保全・創出・活用

③流域連携事業の推進

考え方 清流保全条例の改定による湧水のさらなる保全

目標 協働による水辺の保全・活用

令和4年度の取組み

・八王子市との浅川流域連携事業により、子どもの交流事業を実施。また過去10回のあさかわ写真コンクールを振り返る写真展を実施し、浅川の保全を啓発(図29、30参照)

令和4年度の課題

・地元協賛企業との連携方策の検討



令和5年度の取組み

流域連携による水源かん養の活動や、水辺づくりなどを通じた啓発活動を推進する



図29 あさかわ写真コンクール
(2022年度)



図30 八王子市との浅川流域連携事業

あさかわ写真コンクール

浅川の魅力を広く人々に伝えるために、日野市・八王子市が連携して実施している写真コンクールです。



生きもの分野



< 目 標 >

人と多様な生きものが共に暮らせるまち

地球が 40 億年という長い時間をかけて育んできた生物多様性は、私たちの生活に欠かすことができない恵み(生態系サービス)をもたらしています。しかし、人間の活動による「4つの危機」といわれる①開発など人間活動②自然に対する働きかけの縮小③人間により持ち込まれたもの(外来種)④地球環境の変化(地球温暖化)は、生物種の絶滅など地球上の多様な生態系に重大な影響を与えており、多くの生きものの急激な損失が世界的な問題となっています。こうした課題の解決も、身近な環境の保全から始まります。

市民一人ひとりが、地域にある自然に関心を持ち、知り、学び、かかわり、身近な自然環境を維持・保全することで、生きものと人が共生できるまちを目指します。

「人と多様な生きものが共に暮らせるまち」の実現に向けた取組み

i 人々の生物多様性に係わる関心の増進

川遊びなど身近に自然を感じることでできる体験を通して、多くの人に日野市の多様な環境やそこにある生物多様性を伝え、関心を高めます。日野市の生物多様性を自然体験や環境学習を通して、幅広く情報発信を行い、多くの市民の共通認識とし、生物多様性を支える機運を高めます。そして、環境に関心を持ち行動する「人」の育成につなげます。

ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出

私たちの暮らしは、生きるために必要な水や食べ物、安定した気候や災害の緩和など、多くが自然から得られる恵み・様々な生きものや自然環境とのかかわり(生態系サービス)の中で営まれています。日野市にも、里山や用水路など、長い間、人と自然がかかわり育んだ環境があります。そのような場所は、様々な動植物の生息・生育場所でもありました。近年、そうした環境は失われつつあります。

今ある生物多様性を守り育てるため、関連自治体や国、東京都等と連携し啓発活動を行うとともに、市民等の保全活動にかかわる支援の仕組みづくりを検討します。そして、このような環境・活動に関心を持ち行動する人材の育成を行います。

iii 日野らしい自然の保全・育成

崖線に残されたみどり、丘陵地の雑木林、低地に張り巡らされた用水路、多摩川と浅川の河川環境など、日野市の生物多様性は、多摩丘陵・日野台地・沖積低地の特徴的な地形が由来となつて生み出されています。健全な生態系に影響を与える外来種や農業等に被害を与える野生動物、さらには防災面等にも配慮しつつ、人間の視点だけでなく、生きものの視点にも立ち、自然環境を残し、今ある生物多様性を守り育てます。生きものを取り巻く環境は、みどりや水の維持・保全なくして守っていくことはできません。みどりと水分野の取組みとしっかりと連携して推進します。

代表的なデータ

浅川の流量

2022年 2.50m³/s

(直近7年平均 2.23 m³/s)

i 人々の生物多様性に係わる関心の増進

①自然体験活動の推進

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 身近な自然体験からみんなが生物多様性を理解している
みんなが生物多様性に興味を持ち、大切にすることを共有している

令和4年度の実践

- ・漁業振興や環境保全の担い手育成を目的に、多摩川漁業組合と連携し、イベント「か・わ・あ・そ・び」、「釣り教室」を企画。「釣り教室」については浅川3カ所で実施(計90名参加)したが、「か・わ・あ・そ・び」は台風の影響により中止した(図31参照)

令和4年度の課題

- ・天候や暑さによる実施判定の基準設定



令和5年度の実践

- ・子供たちが楽しみながら川に親しむことが出来るよう、より釣果を狙えるようにするなど、イベントの内容を工夫すると共に、「か・わ・あ・そ・び」について予備日を設定し、荒天対応を行う
- ・申込方法の電子化など、参加しやすい環境の整備を図る



図31 釣り教室の風景(2022年7月～8月)

か・わ・あ・そ・び

アユが遡上する多摩川・浅川の魅力発信を目的に開催した「浅川アユまつり」は、令和元年度まで4回実施、延べ33,000人の人出があり、多くの人々に川の魅力を伝えるイベントでした。コロナ禍を経て、規模を縮小し、子どもの川遊び体験に特化した内容にリニューアルしたのが「浅川か・わ・あ・そ・び」です。釣り体験など自然環境に触れる機会を通し、環境保全に係る人材育成や漁業振興を図っています。

i 人々の生物多様性に係わる関心の増進

②生物多様性の情報共有・発信

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 みんなが生物多様性に興味を持ち、大切にしている意識を共有している

令和4年度の実施

- ・日野の生きものを取り巻く環境について理解の増進を図るため、カワセミハウスでは「黒川清流公園」を中心に情報の発信。
- ・企画展「日野の昆虫たち」「日野の植物たち」「日野の野鳥たち」を開催(図32参照)、それに合わせて「日野の水草たち」「親子で楽しむ野鳥観察」など企画展セミナーを開催
- ・カワセミハウスの活動や黒川清流公園の自然をSNS(Twitter)で発信

令和4年度の課題

- ・日野市全域に向けた生物多様性の情報発信



令和5年度の実施

- ・生物多様性への関心を高めるため、令和4年に引き続き展示会を実施する



図 32 カワセミハウスで開催した昆虫展示会の様子(2022年8月)

ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出

①多様な主体が連携できる体制づくり

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 生物多様性を通じてさまざまな主体のつながりが生まれている

令和4年度の実施

- ・東豊田緑地保全地域の保全活動について、関係組織間で方針を協議（有識者、環境団体、市、都及び都の委託先事業所）
- ・協議会を形成し、5か年の作業計画書を3月に作成
- ・計画書に基づいて、複数エリアをゾーニングし、各活動主体が保全（図33参照）

令和4年度の課題

- ・保全地域に非関係者が立ち入り、植物が踏み荒らされているケースが散見される
- ・貴重な動植物の保全と観察のバランス



令和5年度の実施

- ・東豊田緑地保全地域の保全活動を継続的に協議し、日野らしい自然を守ることが出来るよう、協働しながら活動する



図 33 小池復活プロジェクト(掘出作業)

東豊田緑地保全地域

昭和50年に都の「緑地保全地域」に指定され、日野市は地域内の遊水地を活用し昭和58年から60年にかけて「黒川清流公園」として整備しています。段丘部による樹林地や湿性林など多様で豊かな自然環境を背景に、希少植物や希少水生動物が生息しており、地域の生物多様性を育む自然地として重要な役割を担っています。

ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出

②市民活動による生物多様性の推進

関連計画 ひの生きもののプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 水とみどりを次の世代に継承するための活動が市民主体で推進されている

令和4年度の実施

- ・環境保全を担う市民人材の発掘・育成につなげるための市民講座を実施した
雑木林ボランティア講座参加者 20 名、市民環境大学参加者延べ 305 名(全 18 回)
- ・講座以外にも、水に親しみをもち市民を増加させるため「水辺のある風景日野50選ガイドツアー」を実施(図 34 参照)

令和4年度の課題

- ・環境保全を担う人材の高齢化



令和5年度の実施

- ・水とみどりを守る意識をもちた人材を育成するため、上記の講座を令和5年度も行う
- ・講座以外にも、水に親しみをもち市民を増加させるため「水辺のある風景日野50選ガイドツアー」を行う



図 34 水辺のある風景日野 50 選表紙

水辺のある風景日野 50 選

市民から推薦された数多くの候補の中から厳選した場所を、後世に残すべき 50 の水辺「水辺のある風景日野 50 選」として 2013 年度に選定したものです。

この水辺をまちづくりに活かし、市民とともに「水都日野」の実現を目指しています。

ii 生きものと共に暮らせる人と自然のかかわりの創出

③自然と人が支えあうまちづくり

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 日野の魅力を活かすための土地利用が推進されている

令和4年度の実施

- ・令和4年度は滝合小ビオトープで浚渫作業等、機能回復作業を行った(図35参照)
- ・カワセミハウス横の歩道(愛称「こもれびの道」)に黒川マイスターが湧水を利用したビオトープ、落ち葉を使ったカブトムシのベッドを設置、保全活動を行っている

令和4年度の課題

- ・生きものの生息空間の確保と子供たちの環境学習を目的に整備した学校ビオトープについては、設置から年月の経過したものが多く、機能維持が課題となっている
- ・ビオトープをいかに自然に興味を持てる物にしていくかが課題



令和5年度の実施

- ・子どもたちが生きものと触れ合う機会と、生物多様性の理解を増進するため、学校と協力し、学校ビオトープを活用した環境学習を行う。また、必要に応じ機能回復、整備を行う



図 35 滝合小学校のビオトープ(浚渫作業後)

iii 日野らしい自然の保全・育成

① 自然環境の保全

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 日野らしい生物多様性が守られている

令和4年度の実施

- ・浅川に住む生きものの生息環境変化を調査するために、浅川の流量調査を行った。(平成29年度から継続実施)。浅川の水量は、下水処理場の放流水が多摩川に移行したことから、減少している
- ・カワセミハウスにて、黒川清流公園の水路で、湧水量測定を行い、カワセミハウス通信で発信している

令和4年度の課題

- ・浅川の流量が著しく低下した場合の確保方法



令和5年度の実施

- ・浅川に住む生きものの生息環境の変化を定量的に把握、調査するために、継続的に水量の調査を行う

表5 浅川の流量測定結果(過去の測定結果を含む)

測定日	川幅(m)	水深(cm)	流速(m/s)	流量(m ³ /s)
市民連携流況調査 (2016.2.16)	33.0	—	0.2~0.61	2.3
第1回(2017.2.23)	18.5	6.4~22.5	0.14~0.61	1.10
第2回(2017.5.23)	18.6	6.3~22.3	0.13~0.65	1.19
第3回(2017.10.3)	24.9	11.0~35.0	0.018~0.38	3.90
第4回(2018.2.27)	14.8	1.5~74.3	0.0~0.25	0.84
第5回(2018.7.3)	13.9	0.0~35.0	0.30~1.02	2.20
第6回(2018.10.16)	33.0	11.5~43.0	0.35~0.79	5.05
第7回(2018.12.18)	33.0	0.0~32.5	0.0~0.74	1.61
第8回(2019.5.27)	25.0	0.5~41.5	0.41~0.99	2.73
第9回(2020.10.6)	9.83	0~52.0	0.0~0.95	2.57
第10回(2021.5.25)	9.0	0~50.0	0.0~0.44	0.73
第11回(2022.5.10)	9.5	0~45.0	0.0~1.314	2.50

iii 日野らしい自然の保全・育成

②生きものを育む環境の創出と質の向上

関連計画 ひの生きもののプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 生物多様性の豊かな環境が育まれている

令和4年度の実施

- ・「日野らしい自然を守り育てる」を目的に日野中央公園に設置した「バタフライガーデン」の維持管理を行った(図36参照)
- ・ホタルの生息状況について調査を行った

令和4年度の課題

- ・植物の選定にあたり、地域への植生への配慮・生きものの食性への配慮・庭造りの見映えの配慮などのバランスが課題



令和5年度の実施

- ・日野中央公園内に新たに確保した2区画において、生きものの生息空間を造成する。区画ごとにテーマを設けるなど、啓発に有効な手法を検討する

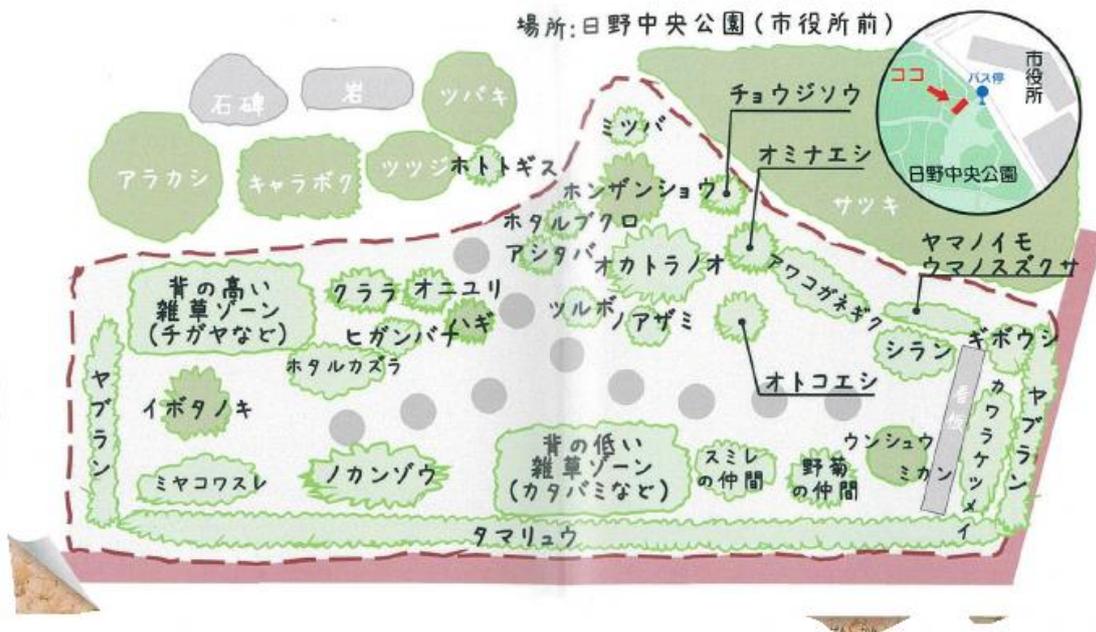


図36 バタフライガーデン 略図(季節や状況により変更あり)

iii 日野らしい自然の保全・育成

③人と生きものが共生するための外来種・鳥獣害対策

関連計画 ひの生きものプラン～日野市生物多様性地域戦略～

目標 健全な生態系が維持されている

令和4年度の実施

- ・特定外来生物であるアライグマや、重点対策外来種であるハクビシンの捕獲事業を実施（表6参照）
- ・オオブタクサ等の外来種の駆除活動を実施

令和4年度の課題

- ・市内における外来生物の確認報告は増加傾向にあるため、今後も継続的に捕獲を実施する必要がある



令和5年度の実施

- ・アライグマ・ハクビシンの捕獲作業を令和4年度に継続して実施
- ・令和5年度に新たに条件付特定外来生物に指定されるアカミミガメ・アメリカザリガニの取扱い等、周知啓発を実施
- ・植物の外来種駆除活動を継続して実施

表6 箱ワナ設置数・アライグマ及びハクビシン捕獲件数

年度	2019	2020	2021	2022
箱ワナ設置件数 (うち、捕獲件数)	38(17)	69(24)	78(18)	92(34)
捕獲内訳				
アライグマ(雄)	5	11	7	21
アライグマ(雌)	9	5	5	3
アライグマ(性別不明)		4		
ハクビシン(雄)	1	2	2	6
ハクビシン(雌)	2	2	4	2
ハクビシン(性別不明)				2
その他(捕獲数含まず)		1※		2※

※その他:全てアナグマ。放獣対応



ごみ分野



< 目 標 >

ごみゼロのまち

日野市は、ごみゼロ社会の実現に向け、市民と共に様々な取り組みを行ってきました。地球環境問題の解決及び資源の有効活用による循環型社会の実現に向けて、ごみの減量、ごみの分別の徹底、資源の適切なリサイクルなど 5R(リフューズ、リデュース、リユース、リターン、リサイクル)の取り組みを日常から着実に進めていきます。また、令和 2 年(2020 年)に開始したプラスチック類の分別収集により、さらなる資源化率向上を図ります。

i 公民協働によるごみ減量の取り組みの推進

市民・事業者・市の協働で、更なるごみの減量に取り組みます。リフューズ(ごみになるものを持ち込まない)・リデュース(出るごみを減らす)・リユース(そのまま使えるものは何度も使う)・リターン(販売店へ返す)の取組みで、ごみの発生を抑えます。発生してしまうものについては、分別徹底により、リサイクル(分別して資源として使う)します。

特に、令和 2 年(2020 年)より開始したプラスチック類分別回収・資源化を、市民に浸透させます。日野市では、この「5R」を推進し、また、そのための推進体制を強化します。

ii 情報発信・啓発によるごみ減量・資源化の推進

広報やごみ情報誌「エコー」、ごみ・資源分別カレンダー等の紙媒体に加え、ごみ分別アプリや SNS 等の活用により、幅広い世代に、ごみ減量意識向上に向けた啓発を繰り返し行い、一人ひとりが行動に移すためのきっかけを作っていきます。

iii 広域連携の推進

浅川清流環境組合で可燃ごみを共同処理する、日野市・国分寺市・小金井市の 3 市で連携し、さらなるごみ減量に向けた取り組みを進めます。

最終処分場への負荷を軽減するため、広域連携を行っている 25 市 1 町で連携し、埋立量ゼロ、焼却灰搬入量削減に努めます。

代表的なデータ

1 人 1 日あたりのごみ排出量

目標 2026 年度までに 550g/人・日以下 → 2022 年度 597g/人・日
(日野市ごみゼロプラン)

i 公民協働によるごみ減量の取組みの推進

①分別徹底によるごみの減量

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
 焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
 最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の取組み

・各戸配付の分別カレンダーのほかに、「日野市のごみ情報誌エコー」、LINE、日野市ごみ分別アプリ等により分別の徹底等を発信(図37参照)

令和4年度の課題

・分別意識の啓発について継続・強化していく必要がある

令和5年度の取組み

・ごみ減量のために更なる分別の徹底を目指して、広報、情報誌、アプリ等を活用して市民への発信・啓発を継続・強化



図 37 日野市のごみ情報誌 エコー

i 公民協働によるごみ減量の取組みの推進

②プラスチック類の減量・資源化率の向上

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度 of 取組み

- 一括収集したプラスチック製容器包装と製品プラスチックをプラスチック類再資源化施設で選別し、プラスチックの資源化を実施

令和4年度 of 課題

- プラスチック一括収集において、資源化できないごみ、不適物等の混入防止が課題



令和5年度 of 取組み

- プラスチックごみへの不適物混入について、広報等での啓発
- プラごみ再資源化の実態を知ってもらうために施設見学を実施



図 38 プラスチック類資源化施設見学の様子と中央図書館での啓発ブース(2022年度)

i 公民協働によるごみ減量の取組みの推進

③生ごみの減量・資源としての活用の推進

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の取組み

- ・会場やオンラインによるダンボールコンポスト講習会の開催(図39参照)
- ・ひの・まちの生ごみを考える会との協働による生ごみ削減のための普及啓発

令和4年度の課題

- ・生ごみ減量・資源化のための普及啓発の継続・強化が必要



令和5年度の取組み

- ・ダンボールコンポスト講習会の定期的な開催の継続
- ・イベントなどの会場にてダンボールコンポストの普及啓発活動を行う



ダンボールコンポスト

ダンボール箱に基材(くん炭+竹パウダー)と生ごみを入れ、微生物の力で発酵・分解し、堆肥化するものです。

図39 ダンボールコンポストと普及啓発用のパンフレット



i 公民協働によるごみ減量の取組みの推進

④新たなごみ減量施策の検討

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の取組み

- ・「レジごみ袋」の実証実験(図40 参照)
- ・「ジモティースポット日野」の実証実験

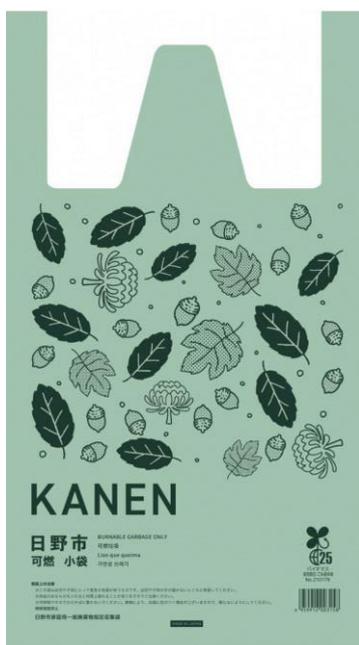
令和4年度の課題

- ・課題検証中



令和5年度の取組み

- ・「レジごみ袋」の実証実験の継続及び検証
- ・「ジモティースポット日野」の実証実験の継続及び検証



レジごみ袋

レジ袋代わりに使える新たな市の指定収集ごみ袋です。
イオンスタイル多摩平の森や、市内セブンイレブン協力店舗にて販売しています。

ジモティースポット日野

粗大ごみのうちまだ使用出来るものをリユース品としてジモティースポット日野に持ち込んでいただくことで、ジモティーに掲載し希望者に販売、または譲渡しています。

図40 明星大学デザイン学部生がデザインしたレジごみ袋

ii 情報発信・啓発によるごみ減量・資源化の推進

① 市民・事業者のごみ減量意識の向上・環境学習の充実

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の実施

- ・「日野市のごみ情報誌エコー」、LINE、日野市ごみ分別アプリ等による普及啓発
- ・廃棄物減量等推進員(ごみゼロ推進員)への研修
- ・施設見学と出前授業の実施
- ・市内在住・在学の小・中学生が作成したごみ減量啓発ポスター展の開催(図41 参照)

令和4年度の課題

- ・ごみ減量・資源化意識の啓発について継続・強化していく必要がある



令和5年度の実施

- ・情報誌、アプリ等を使用した普及啓発の継続
- ・ごみゼロ推進員への研修の継続
- ・施設見学と出前授業の継続
- ・ごみ減量ポスター展の開催を継続



図41 市役所1階ロビーに掲示されたごみ減量ポスター

ごみ情報誌エコー
バックナンバー



iii 広域連携の推進

① 3市における連携の推進

関連計画 日野市ごみゼロプラン

目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の実施

- ・市民委員を含む3市ごみ減量推進委員会(全体会、減量グループ、情報グループ)による課題等の検討

令和4年度の課題

- ・課題を検証中



令和5年度の実施

- ・可燃ごみ施設へ搬入される可燃ごみの内容物検査における新たな3市統一ルールの実行
- ・施設見学の際などに使用する浅川清流環境組合と3市による可燃ごみ施設の業務内容等を紹介する小冊子の作成

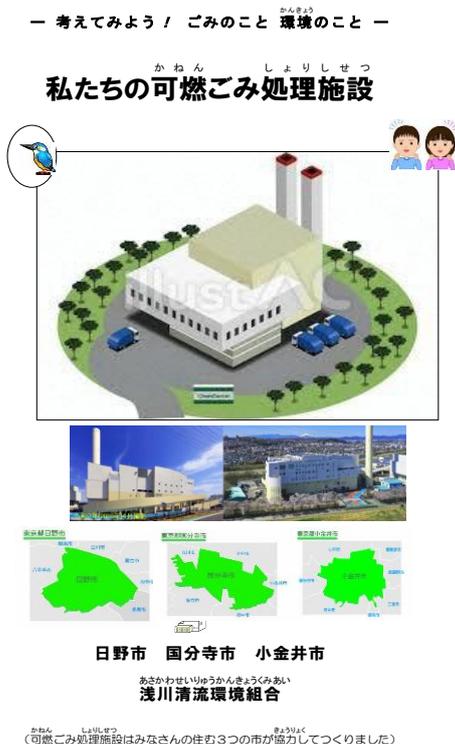


図 42

浅川清流環境組合と3市による可燃ごみ処理施設の小冊子

iii 広域連携の推進

② 多摩地域における連携の推進

関連計画 日野市ごみゼロプラン

- 目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の実績

- ・二ツ塚最終処分場に焼却灰を搬入し、「東京たまエコセメント化施設」で資源化(図44参照)
- ・不燃性残渣については、二ツ塚最終処分場への搬入はゼロ

令和4年度の課題

- ・令和4年度の実績(搬入ゼロ)継続



令和5年度の実績

- ・焼却灰の資源化を継続
- ・二ツ塚最終処分場への不燃性残渣の搬入ゼロを継続



図44 エコセメントを材料としたエコセメントキャラクターの椅子

図43 東京たま広域資源循環組合の広報誌 たまエコニュース

iii 広域連携の推進

③ 災害廃棄物処理における連携の推進

関連計画 日野市ごみゼロプラン

- 目標 1人1日あたりのごみ・資源物排出量 令和8年度までに550g/人・日以下
焼却処理量 令和8年度までに26,000t以下
最終処分量 令和8年度までゼロ維持

令和4年度の実施

- ・多摩地域ごみ処理広域支援体制実施に係る協定に基づく支援体制の継続

令和4年度の課題

- ・引き続き体制を継続していく



令和5年度の実施

- ・多摩地域ごみ処理広域支援体制実施に係る協定に基づく支援体制の継続
- ・東京たま広域資源循環組合にて、「東京都多摩地域災害廃棄物の焼却残さなど取扱方針」を策定予定

多摩地域ごみ処理広域支援体制

多摩地域の30市町村及び8団体の一部事務組合のごみ処理施設等において、予測できない緊急事態や計画された更新・新設等の相互支援協力の必要な事態に備えた、相互支援による広域的な処理体制

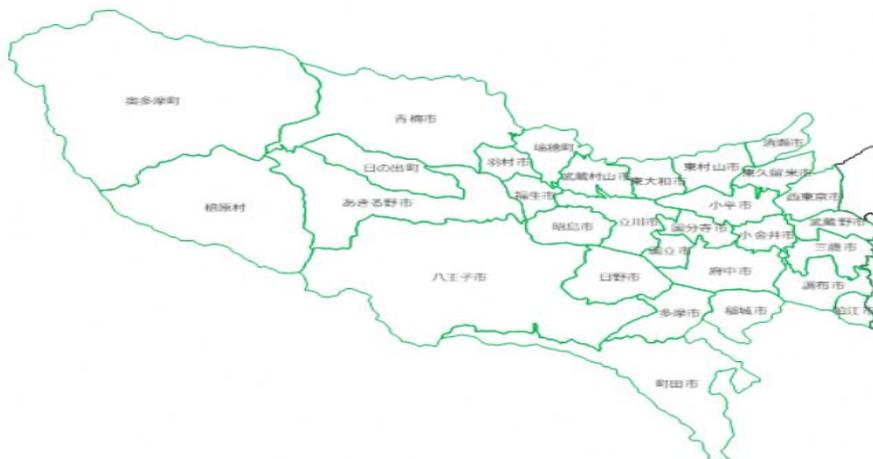


図 45 多摩地域ごみ処理広域支援体制図



生活環境分野



< 目 標 >

心やすらぐ住みよいまち

ごみのポイ捨てや路上喫煙、野生動物による被害などの日常生活をとりまく環境の問題や騒音や振動、土壌や地下水の汚染といった身近な環境の問題など、私たち身の回りには様々な問題があります。こうした環境の状況を把握し、指導・啓発を進めていくことで市民・事業者・行政がそれぞれの責務を果たし、誰もが健康で快適に生活できる環境を目指します。

i 日常生活をとりまく環境の充実

私たちの身の回りには、ごみのポイ捨て、路上喫煙、地域猫・野生動物やペットなどの生き物の問題をはじめとする、生活環境問題が多くあります。市民の快適で心やすらぐ生活を守るためには、一人ひとりがマナーを守り、近隣に配慮することが重要です。このような問題が少しでも減らせるよう、地域での取組み支援や啓発を進めていきます。

ii 身近な環境対策の推進

大気・土壌・地下水汚染、有害物質・化学物質などの状況を監視し、また、道路交通、工場・事業場・店舗や航空機などからの騒音や振動などの状況の調査や監視を行い、身近な環境問題の発生を防止します。また、光害、光化学スモッグ、低周波音、電磁波をはじめとする様々な問題について、情報収集・提供を行い、市民のより健康で安全な生活の確保に努めます。

代表的なデータ

公害苦情件数 2022年度 386件
(直近8年平均 141件)

次年度の取組みについて

生活環境分野は、日常をとりまく生活環境で発生した問題について対応していくため、発生主義の側面があります。そのため、一部次年度の取組みの記載がない箇所がございます。

i 日常生活をとりまく環境の充実

① 快適な生活環境の確保

根 拠 健康増進法、東京都受動喫煙防止条例、日野市みんなでまちをきれいにする条例

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和4年度の実施

- ・他自治体の路上喫煙禁止条例確認、他自治体の公衆喫煙所の視察
- ・JTとの意見交換会の実施
- ・ポイ捨て禁止看板の配布(図46参照)

令和4年度の課題

- ・喫煙マナーについて、HP等で周知を行っているが、喫煙者の意識向上につなげていない



令和5年度の実施

- ・受動喫煙防止条例の制定及び公衆喫煙所の設置に向けた取組を実施
- ・関係各所との協議、他自治体への取組状況調査
- ・市民や関係団体へ向けたパブリックコメント等調査

ポイ捨て禁止



「日野市みんなでまちをきれいにする条例」では、
○たばこの吸い殻、空き缶等の投げ捨てを禁止しています。
○指導、勧告の命令に従わない場合は2,000円以下の
過料を科すことがあります。

日野市環境共生部環境保全課

ポイ捨て禁止!



タバコ・空き缶・ペットボトル・お菓子の包み紙等
ゴミのポイ捨ては絶対にやめましょう!

図46 ポイ捨て禁止看板イメージ

i 日常生活をとりまく環境の充実

②まちの美化

根 拠 日野市みんなでまちをきれいにする条例

目標(考え方) 市民、事業者、行政が共に良好な環境衛生の確保と環境意識の高まりを目指す
道路、公園などの公共施設をきれいにすることで地域の環境美化に貢献する。

令和 4 年度 of 取組み

- ・令和 4 年度春と秋の市内一斉清掃を実施(図47、48、表 7 参照)
自治会、事業者、大学などが地域の美化に取り組むことで環境意識の高まりを目指した

令和 4 年度 of 課題

- ・自治会の構成員の減少と高齢化による負担が課題



図 47
春の市内一斉清掃の様子



図 48
秋の市内一斉清掃の様子

表 7 令和 4 年度市内一斉清掃実績

	参加団体数(団体)	参加者数(人)	可燃ごみ収集量(kg)	不燃ごみ収集量(kg)
春の一斉清掃	222	14,000	29,500	520
秋の一斉清掃	222	14,300	40,200	530

i 日常生活をとりまく環境の充実

③生き物と共生の促進

関連計画 日野市地域防災計画

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和4年度の実施

【犬】

- ・犬の飼い方講習会において、ペット同行避難を呼びかけ(図49参照)
- ・総合防災訓練において、ペット同行避難啓発ブースを展開

【地域猫】

- ・地域猫活動に関して広報ひの、市ホームページ等で周知
- ・令和4年度より「日野市飼い主のいない猫に係る預かり入院費用補助金」制度を制定し、ボランティア団体への補助、連携を開始
- ・避妊・去勢手術助成制度を実施
- ・さくらねこ無料不妊手術事業(さくらねこチケット)に参加
- ・捕獲機の貸出を実施

令和4年度の課題

【犬】

- ・ペット同行避難について、市民に広く周知し、理解を得る必要がある

【地域猫】

地域猫活動について周知を行っているが、市民の認識が低い



令和5年度の実施

- ・市民への継続的な周知、啓発、関係部署及び獣医師会との連携体制の構築

■ ペットは「同行避難」が原則！

災害時にはペットを落ち着かせるとともに、逸走やけがなどに注意してペットとともに避難しましょう。

※避難所におけるペットの飼育は、飼い主と別の場所です。

■ 日野市のすべての指定避難所で「同行避難」が可能！

避難所のスペースには限りがあります。

避難所以外でペットの一時預け先となる場所を決めておきましょう。

■ 平常時から準備を！

避難所にはペットを入れるケージなどの用意はありません。

食料や薬などとともに、飼い主が準備をしてください。

また、他の動物とのトラブルを避けるため日頃からのしつけが必要です。



詳細はこちら！

ii 身近な環境対策の推進

①大気・土壌・地下水汚染等の防止

根拠 環境基本法、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例、日野市環境保全に関する条例
 目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和4年度の実績

- ・令和4年8月に、市内の河川2地点、用水路10地点、流入河川3地点において、生物調査と水質判定を実施。全地点のpH、BOD、DOが環境基準に適合(表8、9参照)
- ・令和5年2月に、自動車の排出ガスに含まれる窒素酸化物の大気中の状況調査を市内3地点(日野市役所・市立病院・JA東京みなみ日野経済店)において実施。全地点で環境基準に適合(図50参照)

令和4年度の課題

- ・環境基準には適合している。引き続き状況を注視していく

表8 河川・用水・湧水の水生生物の確認状況

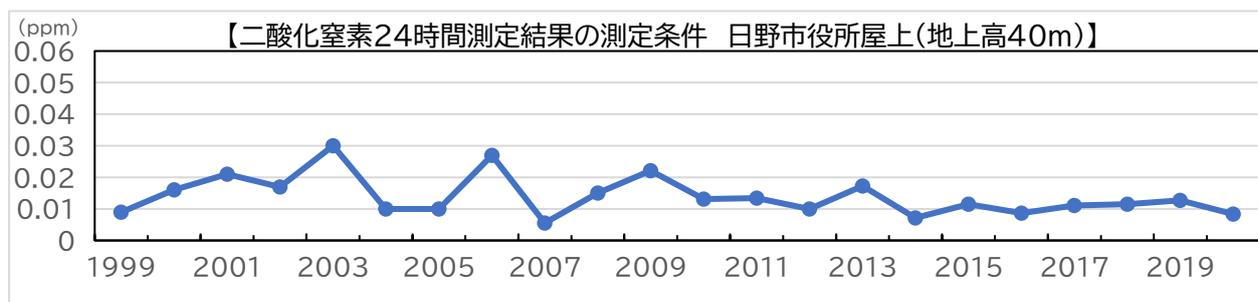
調査地点	調査年度		2021年度				2022年度							
	底生生物	魚類	底生生物	魚類	付着藻類	水草	底生生物	魚類	付着藻類	水草				
多摩川	31	37	7	9	57	66	—	2	38	6	11	38	53	—
浅川	21	—	8	—	46	—	—	32	—	9	—	32	—	—
用水路(10地点)	94	—	15	—	—	—	16	—	105	—	—	—	—	18
流入河川(3地点)	35	—	16	—	—	—	7	—	49	—	—	—	—	12

※多摩川と浅川それぞれで確認した種類(左) 多摩川と浅川を合わせ、日野市で確認した種類(右)

表9 水生生物による水質判定

分類	調査地点		2021年度			2022年度		
			底生生物	魚類	BOD(mg/L)*	底生生物	魚類	BOD(mg/L)*
河川	A	多摩川(日野市多摩川総合グラウンド付近)	A~B	A	0.8	A~B	A	0.9
	B	浅川(クリーンセンター付近)	A~B	A	0.6	A~B	A	0.8
用水路等	用水路							
	C	日野用水下堰(東光寺市営住宅前水路)	B	B	0.6	A~B	B	0.5
	D	日野用水上堰(よそう森堀)	A~B	B	0.7	A~B	C	0.5

A:きれい B:わりあいきれい C:汚れている D:とても汚れている



基準値:一日平均値が0.04ppmから0.06までのゾーン内又はそれ以下であること

図50 二酸化窒素24時間測定結果

ii 身近な環境対策の推進

②有害物質・化学物質対策の推進

根 拠 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例第 116 条

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和 4 年度 of 取組み

- ・土壌汚染については、土壌汚染対策法や、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(以下、環境確保条例)により手続きがある
- そのなかで市は、有害物質取扱業者が工場又は指定作業場を廃止する際の、環境確保条例の第 116 条に基づく手続きを受け付けている(図51 参照)

令和 4 年度 of 課題

- ・令和 4 年度の届出受付件数は 0

～市で受け付けている 116 条に関する届出とは?～

届出の対象者 有害物質取扱事業者(*)

- *有害物質取扱事業者とは?
工場又は指定作業場を設置している者で、
特定有害物質を取扱い、又は取り扱ったことがあるもの

メッキ業、クリーニング業、印刷業、ガソリンスタンドなど…

届出を提出するとき

- ・工場等を廃止したとき ⇒工場等廃止者
- ・工場等の施設等の全部又は主要な部分を除去しようとするとき ⇒施設等除却者
- ・自主的に調査を実施したとき(第 116 条の 2)

汚染状況調査を実施し、調査結果を報告

図 51 市で受け付けている 116 条に関する届出

ii 身近な環境対策の推進

③ 道路交通騒音の測定及び対策の実施

根拠 騒音規制法第17条・18条・振動規制法 16条

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和4年度取り組み

・騒音規制法第18条の規定に基づき日野市内の主要幹線道路を対象とし、自動車騒音状況の常時監視を実施(表10参照)

令和4年度の課題

・引き続き状況を注視していく

表10 道路交通騒音 騒音・振動測定結果

路線名	測定地点	2022年度			
		騒音(dB)		振動(dB)	
		昼間	夜間	eq	L10
国道20号 バイパス	市立病院前(多摩平 4-3-1)	-	-	51.2	55.9
	農産物直売所前(万願寺 6-35-13)	-	-	46.7	49.8
都道155号	富士電機社宅前(旭が丘 1-8)	61.5	57.3	53.3	57.4
都道173号(北野街道)	第6分団消防小屋前(平山 5-1-19)	66.5	62.3	46.4	47.3
都道41号(川崎街道)	三沢浄水場前(三沢 1-19-1)	62.1	57.8	45.4	49
503号線(相模原立川線)	東部会館前(石田 1-11-1)	67.0	63.8	40.5	44
調査期日		令和4年10月19日~令和4年12月1日			

【騒音測定結果の評価】

2021年度と比べ、数か所に変化が見られましたが、特別に大きい変化ではありませんでした。

引き続き、定点にて測定の継続を実施していきます。

なお、市立病院前と農産物直売所前については、データ不備による欠測となっております。

ii 身近な環境対策の推進

④工場・事業場・店舗からの騒音・振動への対策

根 拠 騒音規制法・振動規制法・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和 4 年度 of 取組み

- ・令和4年度の公害苦情件数は下表の通り
騒音・振動の苦情相談に関しては、約半数をしめており、解体工事の騒音・振動や、深夜の営業騒音等の苦情に対して、現場確認した上で、注意指導を行った(表11 参照)

令和 4 年度 of 課題

- ・公害苦情相談で匿名での相談が増えてきているが、現場確認をした際に相談された場所や内容が違った時など、連絡が取れず対応が困難な場合がある

表 11 令和 4 年度公害苦情件数

月	総数 (受付件数)	特定工場	特定建設作業	その他
4	27	0	1	26
5	46	0	0	46
6	30	0	0	30
7	30	1	2	27
8	26	0	0	26
9	48	0	3	45
10	47	1	0	46
11	25	0	1	24
12	20	0	4	16
1	19	0	0	19
2	20	0	0	20
3	48	0	0	48
合計	386	2	11	373

※1件の苦情につき1つの発生源→総数(受付件数) = 各項目の合計

ii 身近な環境対策の推進

⑤航空機騒音についての対策

根 拠 環境基本法第16条第1項

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和4年度取り組み

- ・航空機騒音については、環境基本法第16条第1項に基づき、「生活環境を保全し、人の健康の保護に資するうえで維持することが望ましい航空機騒音に係る基準」を「環境基準」として、横田基地離発着航空機の騒音について常時監視を行った(表12 参照)
- ・令和4年度の測定結果については、下表の通り環境基準を達成(表13 参照)
次年度以降も、横田基地離発着航空機の騒音について、常時監視を行う

令和4年度の課題

- ・高幡不動周辺でのヘリコプター等の航空機騒音苦情が年間の騒音苦情件数の半分を占めていた。その苦情は、ホームページからの苦情であったが、匿名だったため日野市側の対応方針等をお伝え出来ないことにより、市が何もしていないと感じ、苦情内容が過激になっていった。今後は、匿名での苦情相談についての対策が必要

表12 横田飛行場に係る航空機騒音(2022年度)

測定月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
Lden (dB)	51.9	55.2	49.8	50.7	47.4	50.7	50.7	52.5	48.8	48.5	49.4	55.1	51.6
飛来回 数(回)	360	347	288	312	104	352	414	352	204	284	222	325	3,564

測定場所 日野市旭が丘5-1-1 市立旭が丘地区センター

測定結果 下表の通り、環境基準を達成

表13 騒音の環境基準

地域の類型	基準値(Lden)
I(第一種、第二種住居専用地域)	57以下
II(I以外の地域)	62以下

※環境基準(人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準)

ii 身近な環境対策の推進

⑥ 関連情報の収集及び提供

根 拠 日野市光化学スモッグ緊急時対策要綱

目標(考え方) 日常生活をとりまく環境の充実

令和 4 年度 の 取 組 み

- ・令和 4 年度光化学スモッグ緊急措置発令状況は、予報 2 回、注意報 5 回、学校情報 7 回(表 14 参照)
- ・予報・注意報・警報・学校情報が発令された際は、日野市光化学スモッグ緊急時対策要綱に基づき関係部署(学校課、保育課、発達・教育支援課、子育て課、生涯学習課、子ども家庭支援センター、地域協働課、財産管理課、七生支所、文化スポーツ課、カワセミハウス)に周知を行った

令和 4 年度 の 課 題

- ・引き続き状況を注視していく

表 14 令和 4 年光化学スモッグ緊急時措置月別発令状況(多摩南部地域)

種別 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	計
予 報			1	1				2
注 意 報			2	2	1			5
警 報								0
学校情報	1	1	2	2	1			7

※光化学スモッグ緊急時発令基準

予 報 高濃度汚染が予想されるとき

注 意 報 オキシダント濃度 0.12ppm 以上で継続するとき

警 報 オキシダント濃度 0.24ppm 以上で継続するとき

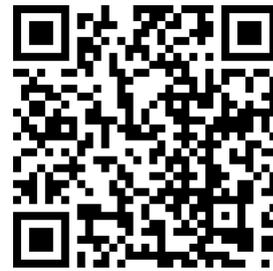
学校情報 オキシダント濃度 0.10ppm 以上で継続するとき

3

市民・地域の環境活動紹介

日野市内には環境に係る活動をしている団体が多数存在します。ここでは、環境に関する活動を継続的に実施している団体の一部を紹介します。団体の詳細及び活動内容の詳細については、「環境活動情報レポート」としてまとめ、報告します。

団体(一例)※掲載 五十音順
NPO 法人環境教育ネットワーク
倉沢里山を愛する会
認定 NPO 法人子どもへのまなざし
特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会
真堂が谷戸蛍の会
滝合水辺の楽校「浅川っ子の会」
八王子・日野カワセミ会
東豊田緑湧会
ひの市民リサイクルショップ回転市場
ひの炭やきクラブ
日野団塊世代広場
ひのどんぐりクラブ
日野の自然を守る会
ひの・まちの生ごみを考える会
みどりワクワクチーム
南丘雑木林を愛する会



環境活動情報レポートQR

※ここで紹介している団体は、「日野市環境活動情報レポート」に御寄稿いただいている団体です。
 (2023年7月1日現在)
 また、市HP上にて情報を随時更新しております。

歳入

環境関連決算額(令和3年度)		
分野	項目	決算額(単位 千円)
気候変動	放置自転車等撤去手数料	1,557
みどり	市民農園使用料	3,596
	公園使用料	14,216
	緑地保全地域植生維持管理費	974
	程久保川・谷地川遊歩道維持費	13,000
	環境緑化基金繰入金	60,000
	七ツ塚ファーマーズ使用料	690
水	河川使用料	6,510
ごみ	清掃手数料	699,985
	プラ製容器包装・再資源化支援事業	49,879
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金繰入金	1,249,000
	資源物売払代金	62,921
	石田環境プラザ使用料	5
生活環境	墓地管理手数料	576
	工場認可手数料	16
	畜犬手数料	5,458
	屋外広告物許可手数料	1,220
	屋外広告物許可事務費	3,225
	火葬場使用料	13,270
	墓地使用料	462
	東京都環境確保条例委託事務費	26,229
総合	カワセミハウス使用料	89
合計		2,212,878

歳出

環境関連決算額(令和3年度)		
分野	項目	決算額(単位 千円)
気候変動	LED街路灯借上料	49,180
	自転車対策経費	28,615
	交通網整備支援経費	197,460
	南平体育館太陽光発電設備工事	27,641
みどり	農業改善経費	14
	振興対策経費	3,495
	市民農園育成経費	5,158
	援農制度育成経費	599
	認定農業者支援経費	1,003
	援農ボランティアコーディネート事業経費	66
	日野産ブランド支援事業経費	207
	学校給食供給支援事業経費	9,201
	七ツ塚ファーマーズセンター管理運営費	8,384
	生産緑地保全活用検討経費	15
	公園管理経費	152,810
	公園整備経費	56,667
	緑化推進事業経費	24,601
	緑の保全事業経費	13,562
都市農地保全支援プロジェクト事業経費	14,000	
水	し尿処理経費	28,972
	し尿処理施設経費	9,836
	し尿処理施設整備経費	2,805
	一般管理事務経費	2,044
	清流啓発事業経費	3,258
	湧水対策経費	40
	河川維持管理経費	195,221
	「水都・日野」事業経費	22,234
	専用水道等管理経費	3,175
	下水道事業経費	1,399,338
生きもの	ひの生きものプラン事業経費	3,746
ごみ	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金	25,658
	ごみ処理関連施設及び周辺環境整備基金利子	40
	一般管理事務経費(施設課)	634

分野	項目	決算額(単位 千円)
ごみ	一般管理事務経費(ごみゼロ推進課)	25,697
	クリーンセンター維持経費	96,722
	ごみゼロ施策推進事業経費	171,564
	資源回収奨励事業経費	9,949
	資源物回収事業経費	421,488
	容器包装リサイクル法関連事業経費	26,880
	資源有効利用促進法関連事業経費	64
	生ごみリサイクル事業経費	2,735
	広域循環組合経費	349,423
	石田環境プラザ整備経費	157,843
	石田環境プラザ管理・運営経費	30,359
	浅川清流環境組合経費	263,340
	3市ごみ減量市民会議経費	34
	可燃ごみ収集経費	442,403
	粗大ごみ収集経費	194,971
	不燃ごみ収集経費	75,285
	動物死体収集運搬経費	1,235
	プラスチック類資源化施設運営経費	209,838
	飲食業者への新たな支援事業経費(テイクアウト等支援事業)	5,002
	生活環境	消費者啓発事業経費
消費生活相談事業経費		918
消費生活運動育成事業経費		9
食育推進会議運営経費		457
生きもの共生事業経費		2,746
ドッグラン運営事業経費		922
市内一斉清掃事業経費		1,019
公害環境対策経費(人件費を除く)		3,450
空き家等対策経費		9,262
市営墓地経費		450
火葬場経費		34,935
総合	環境保全推進経費	965
	カワセミハウス事業経費(人件費を除く)	5,664
	まちづくり条例経費	95
	まちづくり計画経費	5,062
	開発指導・地区計画届出受理経費	265
	ユニバーサルデザイン事業経費	6,022
合計		4,848,063

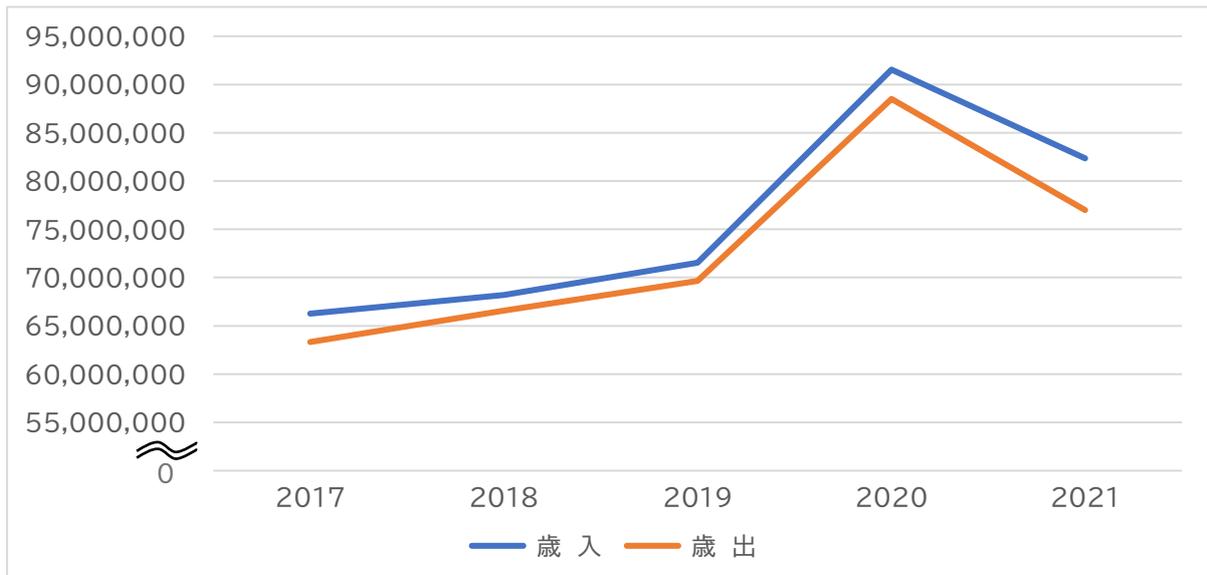


図 52 日野市一般会計決算額

I. 令和3年度(2021)年度一般会計決算額

歳入:82,339,045 千円

歳出:77,007,200 千円

前年度比で歳入・歳出が約10~13%減りました。主な理由として、新型コロナウイルス対策として事業が停止したことが挙げられます。

II. 環境関連歳入出額

歳入: 2,212,878 千円

歳出: 4,848,063 千円

火葬場経費・東京都環境確保条例委託事務費等を環境関連歳入へ追加したため、歳入は昨年よりも増加、歳出は下水道事業経費が減少したため微減となりました。

<予算項目について>

令和2年度・令和3年度の予算については新型コロナウイルス感染拡大防止による予算額の増減が激しいため、今回の白書へ追加した項目について記載いたします。

今回の白書へ追加した項目(抜粋)

歳入

項目名	令和3年度決算額(単位 千円)	要因
火葬場使用料	13,270	今回の白書より集計を行うため
東京都環境確保条例委託事務費	26,229	今回の白書より集計を行うため

歳出

項目名	令和3年度決算額(単位 千円)	要因
石田環境プラザ整備経費	157,843	石田環境プラザが令和3年7月より開設したため
石田環境プラザ管理・運営経費	30,359	石田環境プラザが令和3年7月より開設したため

(1) 審議会の意見

令和4年度(2022年度)日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書では下記のとおり意見を日野市環境審議会からいただきました。

令和5年7月25日

日 野 市 長

大坪 冬彦 様

日野市環境審議会会長

柳川 亜季

日野市環境審議会の意見について

日野市環境基本条例(平成7年条例第18号)第18条に基づき、令和4年度環境白書案について、令和5年7月25日に開催された日野市環境審議会で審議しました。意見は下記のとおりです。今後、施策を推進する際にはこれらの事項に十分に配慮するようお願いいたします。

記

- 1 環境白書の各分野の施策を適切に進行管理するため、定量的に判別できる指標、進捗状況等に関して記載すること。
- 2 令和4年度の実績、発生した課題、それを踏まえた令和5年度の実績内容、という流れで事業報告をすること。
- 3 初めて読む市民にも分かるように実績状況にて掲載している図表や写真について、取扱う背景や注釈などの説明を追加することが望ましい。
- 4 写真などの視覚効果の部分と説明文の分量のバランスを再考すること。
- 5 図表を「市民の見やすさ」という視点で改めて調整すること。

今回の白書についてご審議いただいた日野市環境審議会の委員です。

日野市環境審議会 委員(※敬称略) 任期 令和5年4月1日から令和7年3月31日まで
公募市民

小池 勝造、伊瀬 洋昭、田邊 幸子、小野寺 麻理子

学識経験者

宮沢 清子、田中 優、柳川 亜季、加藤木 秀章、奥 真美

事業者

大久保 嘉則(日野市商工会)、尾崎 義昭(環境緑化協会理事長)、

高見沢 学(日野自動車(株)安全環境推進部長)

環境保全関係行政機関、関係団体

前田 憲一(東京都多摩環境事務所廃棄物対策課長)、岸野 國男(日野市用水組合連合会長)、

金子 凱彦(日野の自然を守る会)

(2)意見への対応について

(意見)

- 1 環境白書の各分野の施策を適切に進行管理するため、定量的に判別できる指標、進捗状況等に関して記載すること。

(対応)

定量的に判別できる目安となる指標を、分野の前段に記載いたします。

(意見)

- 2 令和4年度の実績、発生した課題、それを踏まえた令和5年度の実績内容、という流れで事業報告をすること。

(対応)

令和4年度の実績、その課題、令和5年度の実績といった構成にいたします。ただし生活環境分野等、事業の性質上課題がないケースや、令和5年度に取組んでいく内容がないケースもあるため、記載の方法については検討いたします。

(意見)

- 3 初めて読む市民にも分かるように取組状況にて掲載している図表や写真について、取扱う背景や注釈などの説明を追加することが望ましい。
- 4 写真などの視覚効果の部分と説明文の分量のバランスを再考すること。
- 5 図表を「市民の見やすさ」という視点で改めて調整すること。

(対応)

取組みや課題について丁寧に説明するとともに、図表・写真については取り扱う背景や注釈を追加し、誰が読んでも分かりやすい内容にいたします。

日野市第2次環境基本計画の活動指標に用いられていた各種データを、引き続き参考資料として本章にまとめています。日野市の環境の現状を知る一つの手がかりとして、ご利用ください。

気候変動分野

2011年から最新のデータである2020年で175kt-CO₂減少しております。この現象の要因としては、産業(製造業等)部門の二酸化炭素排出量が2011年には218kt-CO₂であったのに対し、2020年には71kt-CO₂に減少したことが大きな要因です。一方、業務部門(サービス業等)は2011年の92kt-CO₂から2020年には127kt-CO₂と増加傾向にあります。これは製造業からサービス業へと業務が移り変わっていることが原因であると考えられます。その他のデータについては例年通りの傾向となっているため、省エネ・二酸化炭素削減に向けて引き続き事業を実施します。

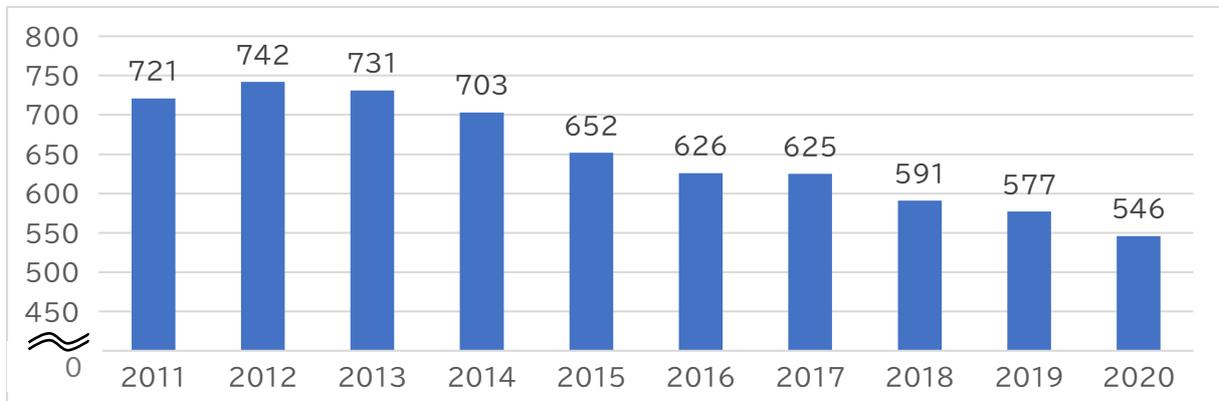


図 53 二酸化炭素排出量(日野市全体)(kt-CO₂)

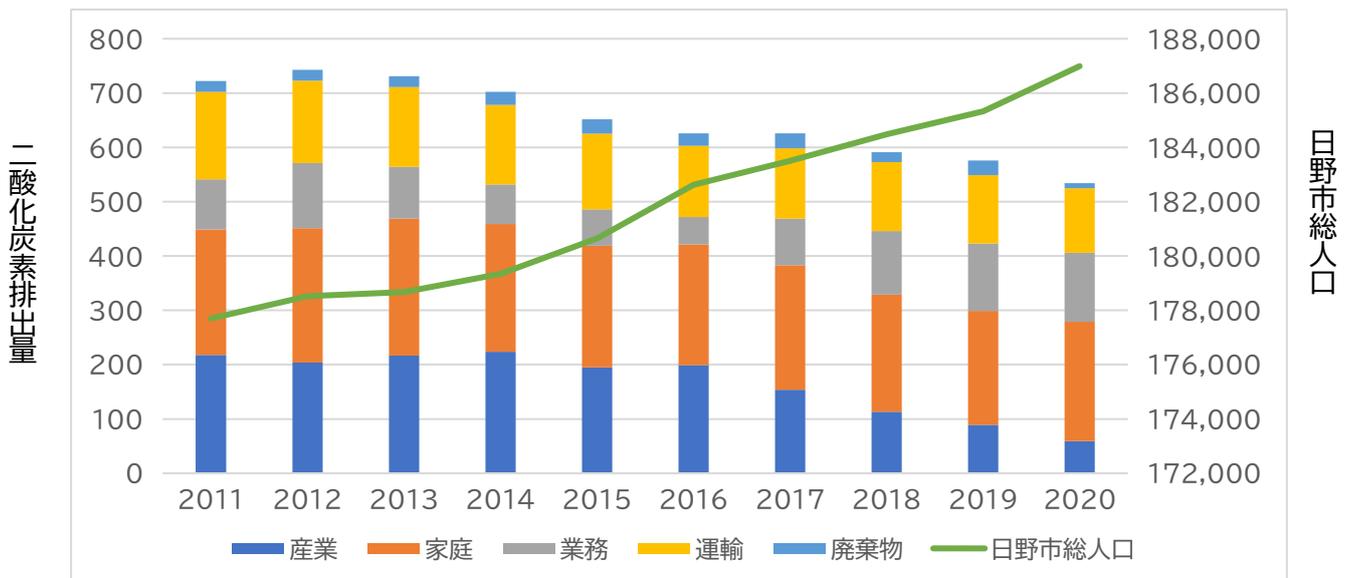


図 54 部門別二酸化炭素排出量(日野市)



図 55 CO₂基礎排出係数

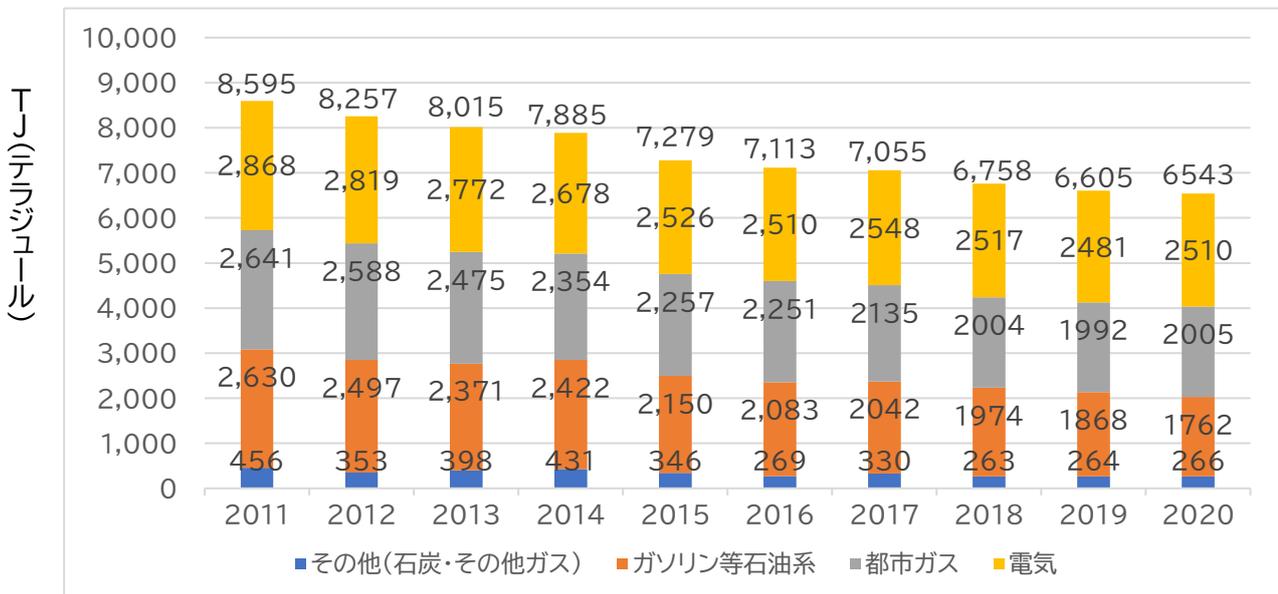


図 56 日野市のエネルギー使用量

表15 公共交通機関(ミニバス・バス)の整備率

年度	公共交通機関の整備率
2013	79.6%
2014	79.6%
2015	80.1%
2016	80.1%
2017	80.1%
2018	80.1%
2019	73.6%
2020	73.9%
2021	73.9%
2022	73.9%

表16 都市計画道路の整備率

年度	都市計画道路の整備率 (%)
2010	89.9
2011~2022	92.8

表 17 ワットチェッカー等貸出状況

年度	ワットチェッカー		省エネナビ		環境家計簿活用件数
	貸出数	累計貸出数	貸出数	累計貸出数	(エコキング回収数)
2017	12	262	6	151	14,473
2018	10	272	4	155	14,040
2019	1	273	1	156	13,583
2020	2	275	2	158	7,135 ※
2021	0	275	0	158	5,802 ※
2022	2	277	1	159	11,623

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、年 2 回実施を 1 回とし、半減

表 18 省エネ診断の参加事業者数

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
参加事業者数(単年)	0	2	1	1	3	9
参加事業者数(累計)	21	23	24	25	28	37

表 19 公共施設の新エネルギー導入状況

年度	新I初びゞ-導入状況累計(kW)	備考
2017	194.36(0.36)	カワセミハウス、百草台自然公園、市民の森スポーツ公園、多摩平第一公園 各 0.09kW 計 0.36kW
2018	194.36(0)	新規導入なし
2019	198.035(3.675)	南平小学童クラブ 3.675 kW
2020	198.035(3.675)	新規導入なし ※日野市単独の所有ではありませんが、浅川清流環境組合の可燃ごみ処理施設では、30kW の太陽光パネル及び 5,190kW のごみ発電を導入しました。
2021	248.035 (50)	南平体育館:30kW 豊田小学校:10kW、 石田環境プラザ:10kW 計 50kW の太陽光発電システムを導入
2022	248.035(0)	新規導入なし

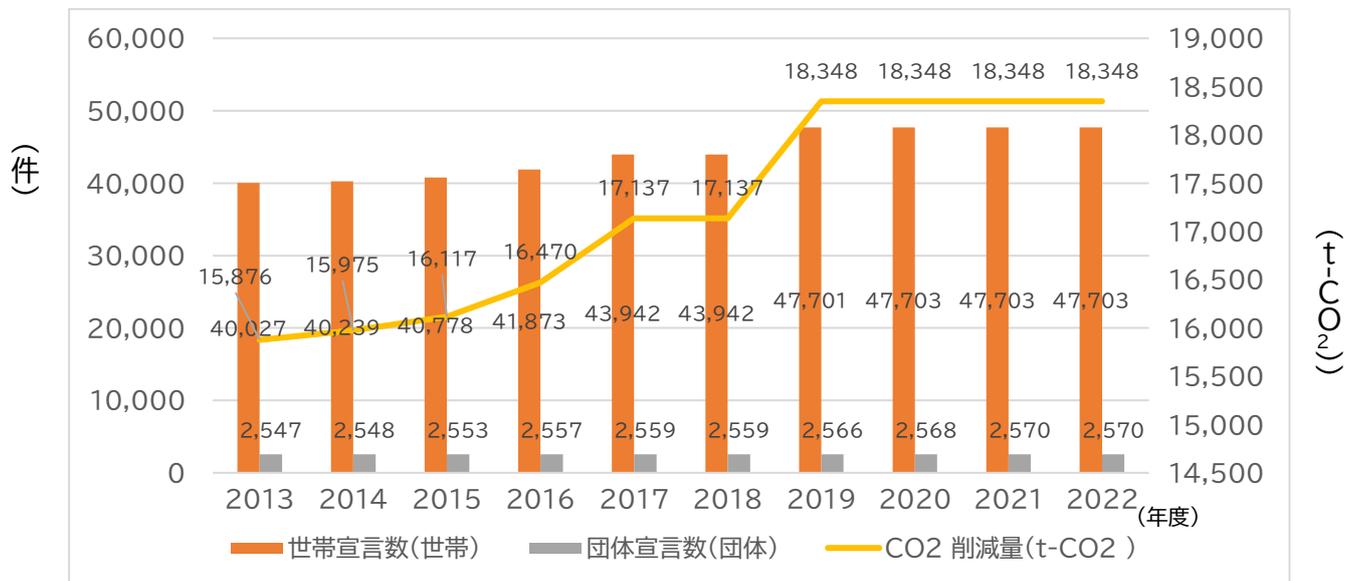


図 57 「ふだん着で CO2 をへらそう宣言」宣言数及び CO2 削減量

みどり分野

農地面積・生産緑地は減少傾向にあります。しかし、市民農園面積、援農人数は微増傾向にあります。多様な主体と連携して市民が農地に親しむ「農のある暮らしづくり」を進めます。

表 20 市民農園等の面積

年度	2018	2019	2020	2021	2022
市民農園等の面積(ha)	2.41	2.41	2.57	2.73	2.73

表 21 援農人数

年度	2018	2019	2020	2021	2022
援農人数(人)	98	99	103	110	109

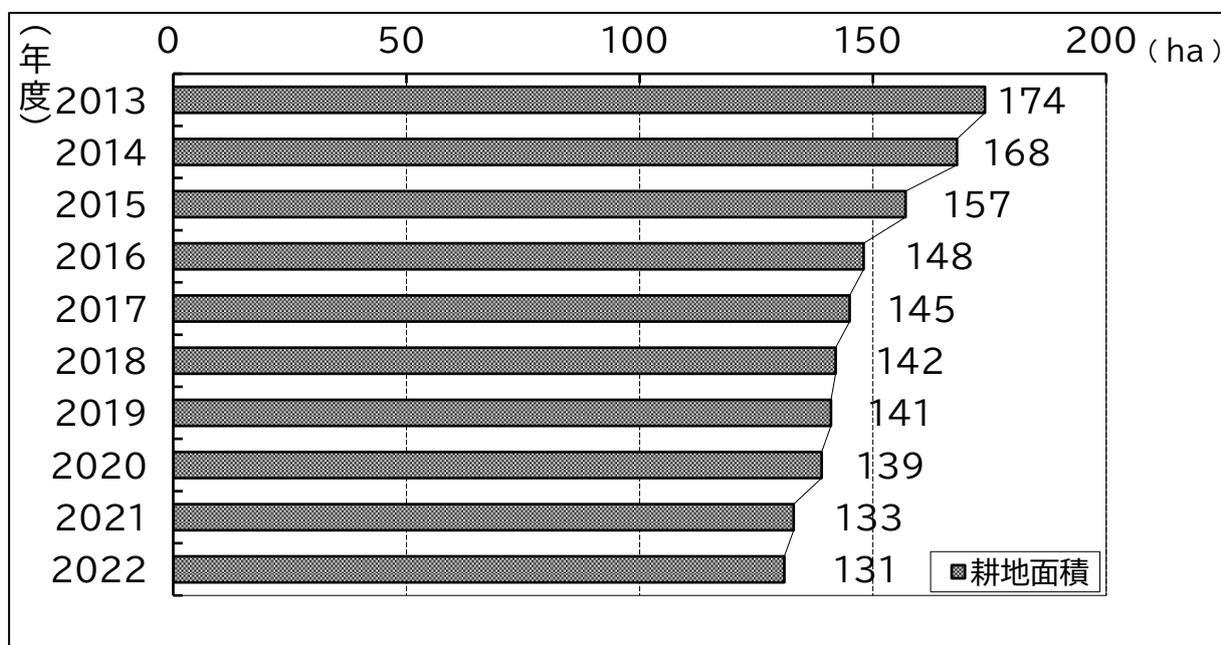


図 58 日野市の農地面積

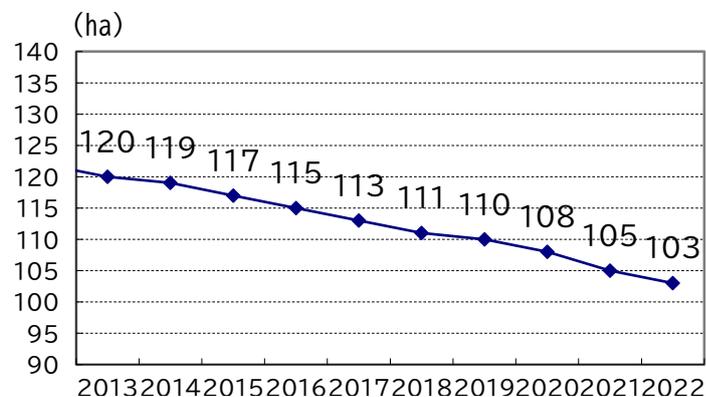


図 59 日野市内の生産緑地面積

表 22 市民農園等の面積内訳

	市民農園(市が開設)	市民農園(民営)	農業体験農園
数(園)	10	4	4
面積(m ²)	16,168	4,129	7,024

表 23 「市」の開催日数

「市」の開催場所(2022 年度)	区分	開催時期	開催日数
みなみの恵み	共同直売所	通年、木～火曜	292
マルシェひらやま(平山農産物直売所)	共同直売所	通年、月～土曜	292
JA 七生地区農産物直売所	共同直売所	通年、月～土曜	292
日野市立七ツ塚ファーマーズセンター	共同直売所	通年、月～日曜	356
日野駅東側広場	定期即売会	通年、火・木・土曜	155
多摩平第七公園	定期即売会	通年、火・木・土曜	155
日野市役所(NPO 法人めぐみ)	定期即売会	月 3 回 第1金曜(6 月より)・ 第 2 木曜・第 4 木曜	37
暮れの野菜即売会	定期即売会	12月下旬	8
ブルーファーマーズ若手農業者即売会	イベント販売	各種イベント即売会、第3日曜	12
合計			1,599

みどり率・森林の割合については最新の結果が発表されていないため、傾向が把握できていませんが、市ではウェルカムツリーや雑木林ボランティアなど市内のみどりを保全するための様々な取り組みを進めています。

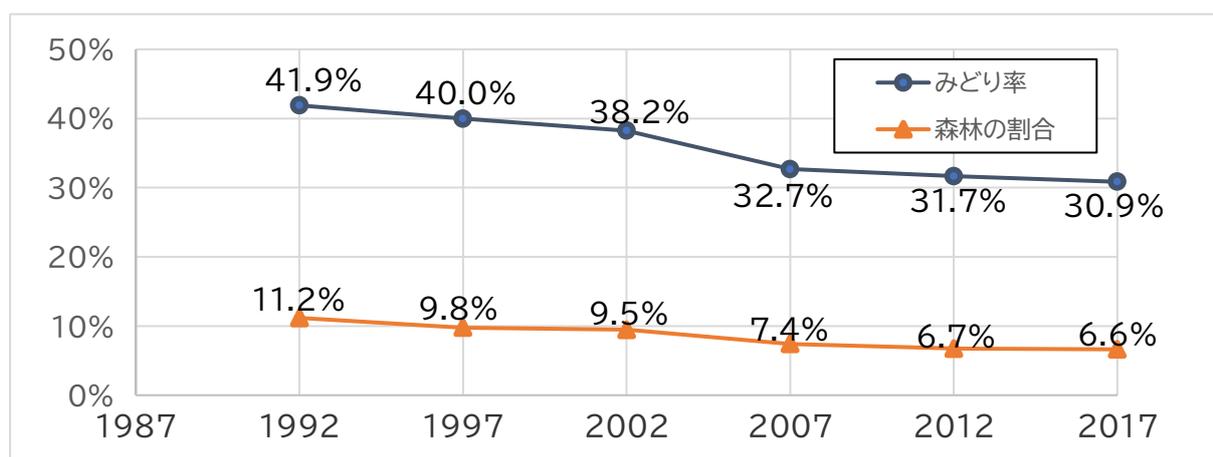


図 60 土地利用現況調査「森林」の割合・みどり率

表 24 市が寄付や買収等で取得した樹林地面積

種別※	2018	2019	2020	2021	2022	2001 年度以降累計
寄付(ha)	—	—	—	—	0.38	18.58
買収(ha)	0.35	0.41	0.43	—	—	

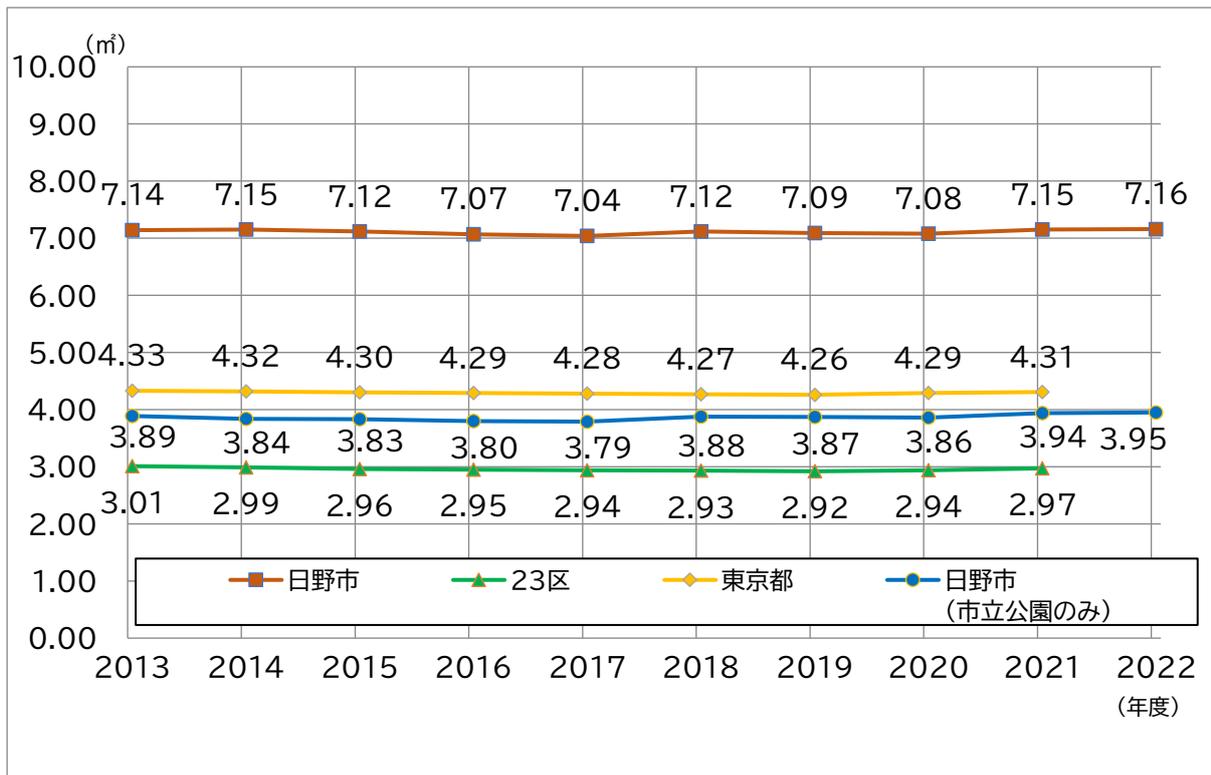


図 61 一人当たり都市公園面積

表 25 多摩地域の一人当たりの都市公園面積(2022 年度)

10 m ² 以上	7 m ² 以上	4 m ² 以上	4 m ² 未満
瑞穂町 (38.07)	昭島市 (9.72)	府中市 (6.87)	あきる野市 (3.79)
武蔵村山市 (17.61)	立川市 (9.20)	羽村市 (6.27)	日の出町 (3.30)
多摩市 (15.96)	東大和市 (8.34)	小金井市 (6.28)	三鷹市 (3.06)
八王子市 (11.99)	福生市 (7.24)	東村山市 (5.25)	小平市 (2.62)
稲城市 (10.90)	日野市(7.02) ※	調布市 (5.10)	東久留米市 (2.25)
町田市 (10.12)		青梅市 (4.66)	国立市 (2.01)
		武蔵野市 (4.11)	国分寺市 (1.72)
			狛江市 (1.47)
			西東京市 (1.34)
			清瀬市 (0.67)

※出展元が違うため、上記図 61 と数値が異なります。

表 26 緑地信託面積

年度	2018	2019	2020	2021	2022
合計面積(ha)	4.10	4.10	3.94	3.92	3.54

表 27 緑のトラストへの寄付件数 ※2009 年度以降の累計金額

年度	2018	2019	2020	2021	2022	累計件数	累計金額※
寄付件数(件)	1	1	0	0	0	1,620	3,417,947 円

表 28 雑木林ボランティア講座修了者数

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2005 年度以降累計
修了者(人)	16	23	17	18	20	390

表 29 ウェルカムツリー、生け垣の助成件数 ※累計は、平成13年(2001年)度以降のもの

年度	2018	2019	2020	2021	2022	累計件数※
ウェルカムツリー	17	13	16	13	15	215
生け垣(件)	1	5	2	3	1	

水分野

浅川の平均河川水量・水位ともに傾向の変化は見られませんでした。

引き続き、大きな変化があるか確認します。

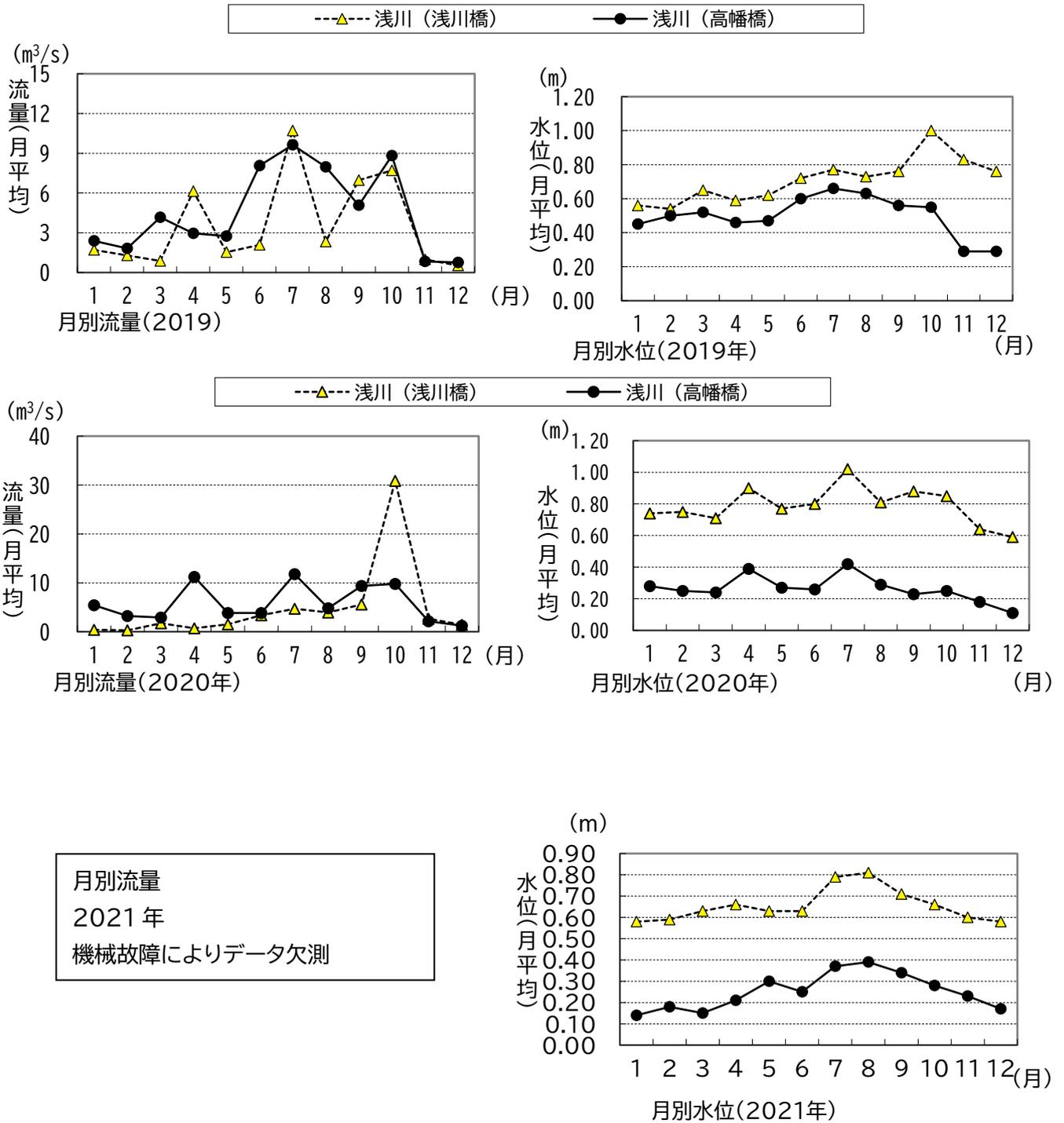


図 62 浅川の平均河川流量・水位

表30 浅川の流量測定結果(過去の測定結果を含む)(再掲)

測定日	川幅(m)	水深(cm)	流速(m/s)	流量(m ³ /s)
市民連携流況調査(2016.2.16)	33.0	—	0.2~0.61	2.3
第1回(2017.2.23)	18.5	6.4~22.5	0.14~0.61	1.10
第2回(2017.5.23)	18.6	6.3~22.3	0.13~0.65	1.19
第3回(2017.10.3)	24.9	11.0~35.0	0.018~0.38	3.90
第4回(2018.2.27)	14.8	1.5~74.3	0.0~0.25	0.84
第5回(2018.7.3)	13.9	0.0~35.0	0.30~1.02	2.20
第6回(2018.10.16)	33.0	11.5~43.0	0.35~0.79	5.05
第7回(2018.12.18)	33.0	0.0~32.5	0.0~0.74	1.61
第8回(2019.5.27)	25.0	0.5~41.5	0.41~0.99	2.73
第9回(2020.10.6)	9.83	0~52.0	0.0~0.95	2.57
第10回(2021.5.25)	9.0	0~50.0	0.0~0.44	0.73
第11回(2022.5.10)	9.5	0~45.0	0.0~1.314	2.50

湧水地点数・湧水量共に、大きな傾向の変化は見られませんでした。引き続き長期的な水位の変化を確認していきます。

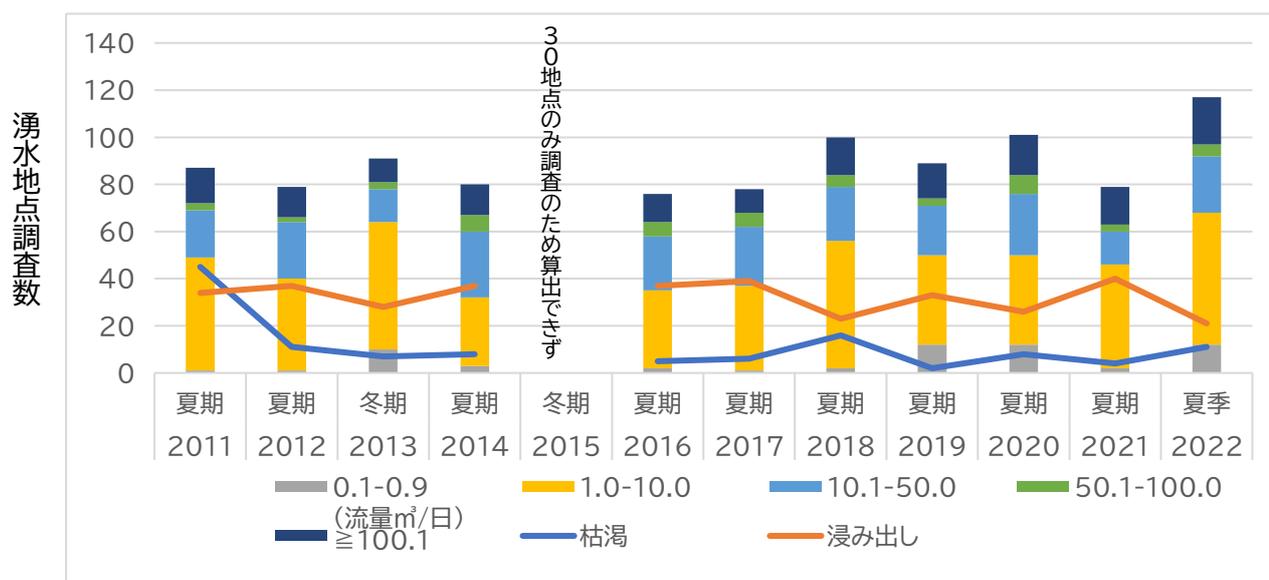


図 63 湧水地点の状況

表 31 地域別に分けた調査地点数と湧水量

	湧水量 (m ³ /日)	湧水量 (L/s)	湧水量 (%)	湧水地点数 (箇所)	湧水地点数 (%)
日野台地上位面 (100m崖線)からの湧水	7,144	82.7	54.2	42	36.8
日野台地下位面 (80m崖線)からの湧水	5,529	64.0	41.9	15	13.2
多摩丘陵からの湧水	511	5.92	3.9	57	50.0
集計から除外	-	-	-	46	-
総計	13,184	152.6	100	160	100

表 32 総湧水量の経年変化(2011年度～2022年度)

調査年月	総湧水量(m ³ /日)(L/S)	年度降水量(mm)
2011年7月～8月	7,690(89.0)	1,799
2012年7月～9月	8,165(94.5)	1,344
2013年12月～2014年2月	5,430(62.8)	1,595
2014年9月～11月	10,399(127.3)	1,745
2015年2月	算出できず	1,733
2016年10月～11月	9,340(108.1)	1,422
2017年9月	8,425(97.5)	1,669
2018年7～8月	13,855(160.4)	1,306
2019年7月	9,876(114.3)	2,028
2020年8月	12,407(143.6)	1,601
2021年7月	13,887(160.7)	1,384
2022年7月	13,184(152.7)	1,480

表 33 湧水量ごとの地点数

総湧水量(m ³ /日)		地点数	割合 (%)
(m ³ /日)	L/秒		
100.1以上	1.15以上	18	11.3
50.1～100	0.57～1.15未満	4	2.5
10.1～50	0.12～0.57未満	24	15.0
1.0～10	0.01～0.12未満	56	35.0
0.1～0.9	～0.01未満	12	7.5
測定可能な地点合計(3地点を除外)		114	71.3
浸み出し・溜り		21	13.1
枯渇・消失		11	6.9
その他(測定不能・採水不可・不明)		10	6.3
測定不可能な地点合計		42	26.3
集計から除外		4	2.5
調査地点総計		160	100.0

表 34 地域別に分けた測定不可能な地点数

	しみだし	枯渇・消失	採取不可能	計
日野台地上位面(100m崖線)	4	1	4	9
日野台地下位面(80m崖線)	1	1	3	5
多摩丘陵	16	9	3	28
計	21	11	10	42

表 35 地下水揚水量

年度	2018	2019	2020	2021	2022
地下水揚水量 (万m ³)	325	292	327	229	254
1事業所当たり揚水量 (千m ³)	90	73	65	42	51
事業所数	36	40	50	54	50

表 36 各用水路の水質分析結果

調査地点名		BOD(mg/L)			
		2019	2020	2021	2022
多摩川(石田大橋付近)		1.0	1.0	0.9	0.9
浅川(落合地内)		0.8	0.8	<0.5※1	0.8
用水路	日野用水下堰(東光寺市営住宅前)	1.0	0.7	0.5	0.6
	日野用水上堰(よそう森堀)	0.8	0.8	0.5	0.7
	豊田用水(豊田 2 丁目地内)	0.8	1.0	0.7	0.8
	豊田用水(堀之内緑道)	1.0	0.8	0.7	1.0
	黒川水路(黒川清流公園)	0.5	0.6	0.6	0.6
	上田用水(延命寺・日枝神社付近)	1.1	1.3	0.5	0.8
	新井用水(新井用水親水路)	1.0	0.8	0.9	1.1
	平山用水(平山東公園・ふれあい水辺)	0.7	0.7	0.8	0.7
	落川用水(落川公園)	0.9	1.2	0.7	0.9
	向島用水(向島用水親水路)	0.6	0.7	0.7	0.7
流入河川	谷地川(連光寺グランド周辺)	0.7	0.8	0.9	1.0
	根川(クリーンセンター付近)	1.6	1.4	0.9	1.2
	程久保川(程久保川ワンド)	0.8	1.1	0.8	1.2

※1 検出下限値は 0.5mg/L

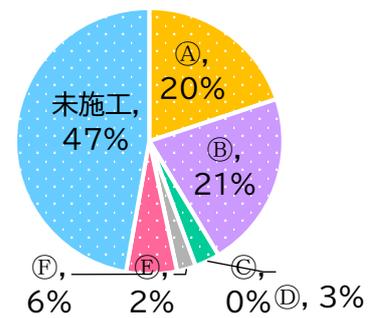
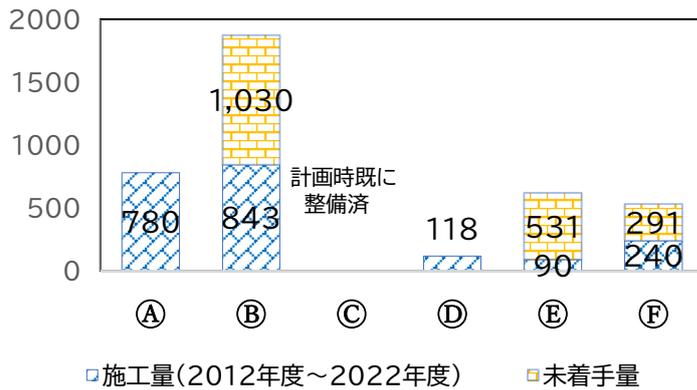
表 37 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況

グラフ凡例:地区名 (施工量/地区計画事業総量)	路線内訳	計画事業量	施工量	実施予定期間 または実施年度
㉑:日野駅周辺 (780m/780m)	幹線市道I-20号線	100m	100m	2017年度
	幹線市道I-13号線	100m	100m	2014年度
	幹線市道I-14号線	-	施工済	整備済
	幹線市道I-9号線	108m	108m	2016年度
	幹線市道I-10号線	-	0m	未定
	市道B33号線	-	0m	未定
	都道169号線	472m	472m	2013年度
	都道169号線 都道41号稲城日野線(川崎街道)	-	0m	未定
㉒:豊田駅周辺 (843m/1,873m)	幹線市道II-44号線	173m	173m	2014年度
	市道E103号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道I-12号線	295m	295m	2014年度
	幹線市道I-12号線	80m	80m	2014年度
	市管理道路	-	施工済	整備済
	駅前口タリー(区画整理事業で整備予定)	130m	0m	2014年度~2017年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	310m	0m	2016年度~2018年度
	区画整理事業者管理道路	-	施工済	整備済
	日野都市計画道路3・4・19号線	260m	0m	2014年度~2017年度
	日野都市計画道路3・4・15号線	180m	0m	2018年度~2020年度
日野都市計画道路3・4・19号線	150m	0m	2014年度~2017年度	
㉓:高幡不動駅周辺(-)	幹線市道II-8号線	-	施工済	整備済
㉔:百草園駅周辺 (118m/118m)	河川管理用通路(両側)	118m	118m	2012年度
	幹線市道II-62号線	-	施工済	整備済
	幹線市道II-5号線	-	施工済	整備済
㉕:南平駅周辺 (90m/621m)	都道173号線(北野街道)	231m	90m	事業中~2020年度
	都道173号線(北野街道)	390m	0m	2012年度~2020年度
㉖:平山城址公園駅周辺 (152m/531m)	都道173号線(北野街道)	291m	0m	事業中~2016年度
	都道155号線町田・平山・八王子線 (立体交差部~交差点接続部)	88m	88m	2021年度
	都道155号線町田・平山・八王子線	152m	152m	2015年度
総 量		3,923m	2,071m	

透水性舗装とは

透水性舗装とは、道路路面に降った雨水を直接路床へ浸透させ、地中に還元する機能を持つ舗装です。

本項では、第二次日野市バリアフリー特定事業計画により設定された計画事業量と、実際の整備状況を示しています。



各地区の計画事業総量に対する施工量

計画事業総量に対する施工量の割合

図 64 第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況

水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合が直近4年(2018年～2021年)の平均値から約8ポイント減少しました。これは市民意識調査の実施方法が変更されたためと考えられますが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベント等が2019年より少なくなったことも影響として考えられます。今後の傾向を注視しながら、水辺に親しむ市民の割合が増加するよう事業を実施します。

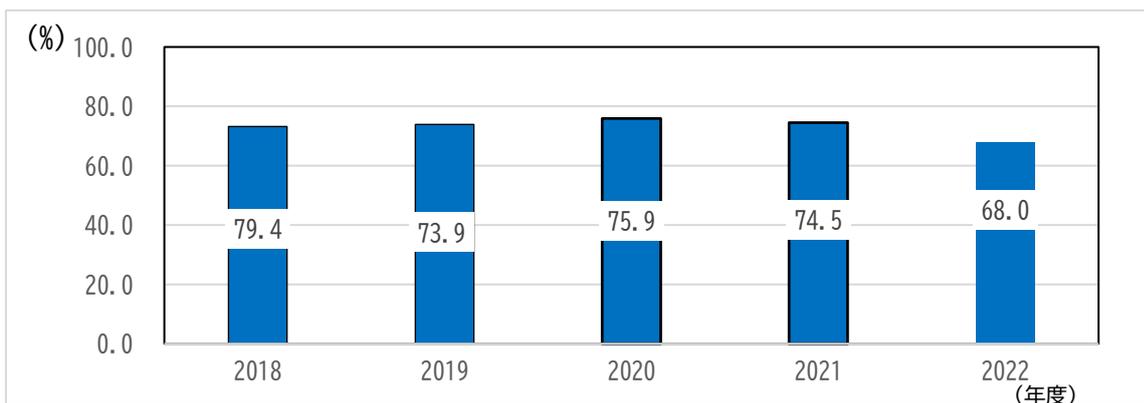


図 65 水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合

表 38 水辺イベントの開催数

年度		2018	2019	2020	2021	2022
開催件数	水辺の楽校	23	25	5	6	5
	市主催	10	8	8	13	13
	その他	28	28	3	3	3
合計件数		61	61	16	22	21

表 39 「用水守」登録団体数

年度	2018	2019	2020	2021	2022
団体数	48	16	17	16	16
人数	401	408	393	266	263

生きもの分野

表 40 「ビオトープづくり」の取組件数

年度	累積件数	取組開始学校・団体
2001 以前	4	七生中、潤徳小、滝合小、日野三小
2002	4	
2003	6	仲田小、日野一小
2004	9	滝合ワンド、日野二小、南平小
2005	10	日野六小
2006	11	多摩平保育園
2007	12	平山小
2008	13	日野四小
2009	13	
2010	13	
2011	13	多摩平保育園移転に伴いビオトープも移設
2012～ 2022	13	

表41 親水イベント参加者数

年度	釣り教室参加者	か・わ・あ・そ・び
2019	25	-※1
2020	57	-※1 ※2
2021	38	-※2
2022	51	-※3

※1 アユまつり(か・わ・あ・そ・びリニューアル前)

※2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず

※3 台風の接近により中止

ごみ分野

一人1日あたりのごみ排出量は減少傾向にあり、家庭系可燃ごみの収集量が減ってきていることから裏付けられています。一方でレジ袋辞退率が微減しているなどの傾向が見られます。ごみの総量を減らすため、様々な取組を進めていきます。

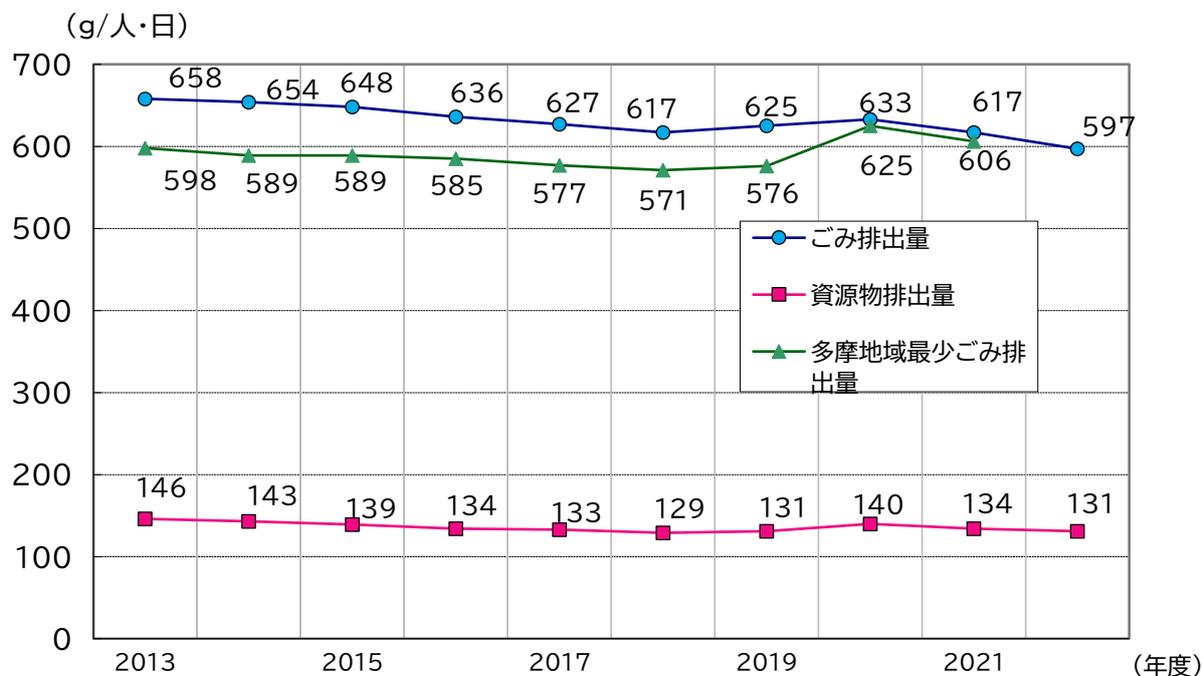


図 66 ごみ排出量・資源物排出量

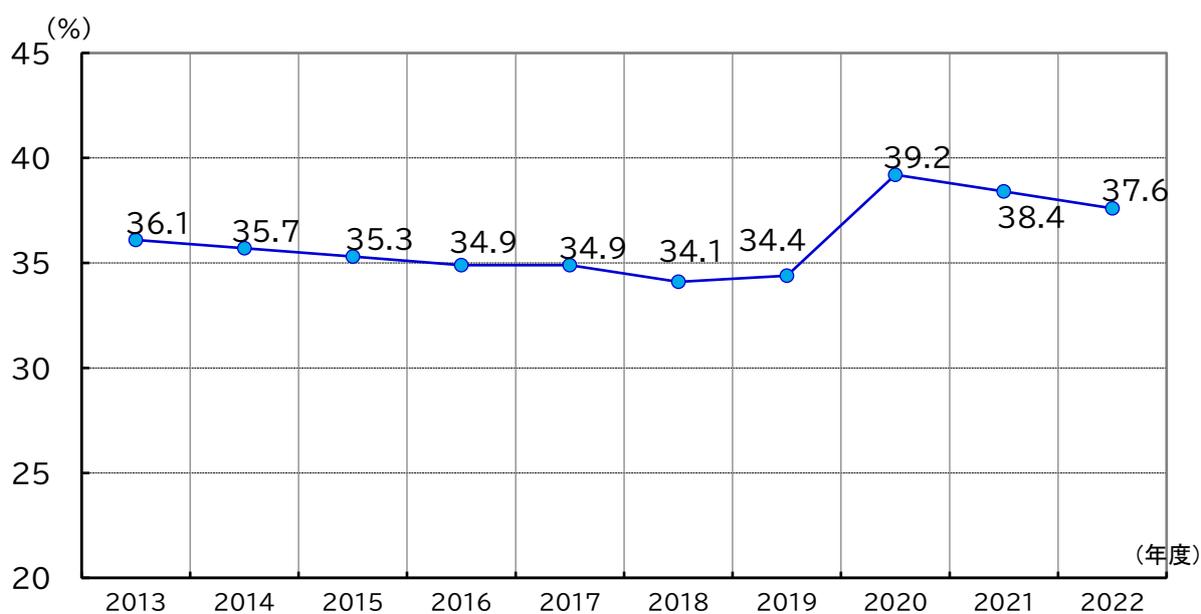
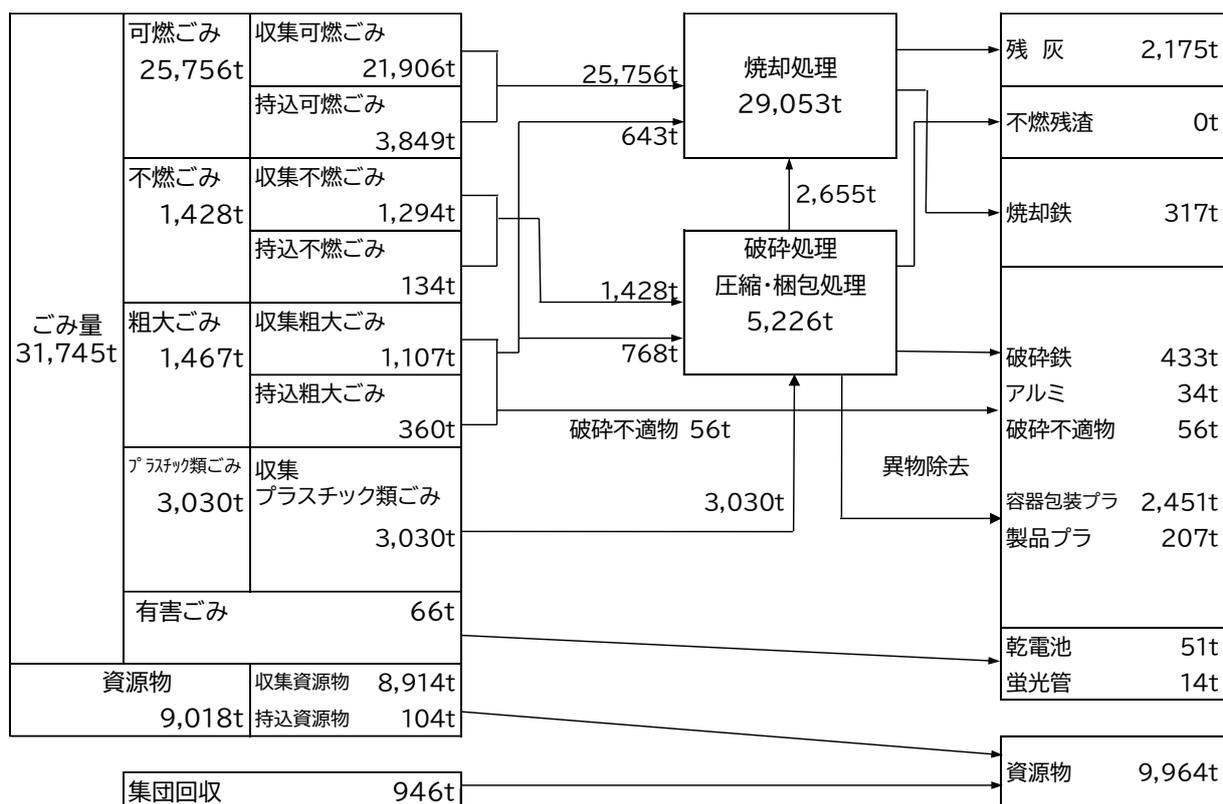


図 67 総資源化率



※四捨五入の関係で合計欄の値と内訳の合計が一致しない場合があります。

図 68 ごみの行方

表42 ごみ量内訳

年度	総量(t)	内訳(t)					
		家庭ごみ					持込量
		小計	可燃 (収集)	不燃 (収集)	粗大 (収集)	有害 (収集)	
2018	33,048	28,334	22,126	5,081	1,063	64	4,714
2019	32,909	27,925	22,495	4,182	1,181	67	4,984
2020	30,325	25,157	22,464	1,417	1,207	69	5,168
2021	29,797	24,874	22,286	1,325	1,194	69	4,923
2022	28,820	24,373	21,906	1,294	1,107	66	4,447

年度	資源回収(t)		
	資源回収(市事業)	プラスチック類 (収集)	資源回収 (集団回収)
2018	8,696	0	1,518
2019	8,892	0	1,425
2020	9,553	3,239	1,025
2021	9,169	3,141	1,000
2022	8,914	3,030	945

表 43 マイバッグ持参率・レジ袋辞退率

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
マイバッグ持参率	64%	62%	65%	-	-	-
レジ袋辞退率	54%	54%	57%	86%	85%	84%

表 44 ペットボトル、発泡トレーの行政回収率

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
ペットボトル(t)	363	376	374	406	419	436
発泡トレー(t)	158	152	106	-	-	-

表 45 焼却ごみの組成

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022	
可燃ごみ (t)	良質	紙	6,356	6,594	6,569	9,698	8870	8,675
		生ごみ	2,867	2,744	2,385	5,902	3789	5192
		布	1,356	708	877	1,019	2206	1358
		草木	956	1,482	1,620	919	1449	1183
	悪質	プラスチック	8,023	9,404	8,683	3,783	4435	4622
		ゴム・皮革	467	266	675	498	468	307
不燃物 (t)	金属	244	288	427	246	134	219	
	ガラス	89	0	67	15	22	22	
	土砂・陶器類	667	44	135	179	446	22	
その他可燃物(t)	その他可燃物	1,200	597	1,057	205	468	329	
家庭系可燃ごみ収集量(t)		22,225	22,126	22,495	22,464	22,287	21,929	

表 46 焼却ごみの組成割合(湿ベース)

年度		2017	2018	2019	2020	2021	2022
可燃ごみ	紙	26.9%	33.4%	31.7%	43.2%	35.4%	34.5%
	生ごみ	25.4%	19.8%	19.0%	26.3%	33.1%	36.9%
	布	5.3%	3.7%	3.0%	4.5%	6.0%	4.4%
	草木	4.9%	11.0%	8.1%	4.1%	6.9%	5.9%
	プラスチック	28.1%	26.9%	29.8%	16.8%	14.1%	14.7%
	ゴム・皮革	1.4%	0.6%	2.2%	2.2%	1.1%	1.0%
不燃物	金属	0.8%	0.7%	1.1%	1.1%	0.4%	0.6%
	ガラス	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%
	陶器類	2.1%	0.2%	0.3%	0.8%	1.1%	0.0%
その他可燃物	その他可燃物	4.9%	3.5%	4.6%	0.9%	1.9%	2.0%

表 47 生ごみ減量・資源化への取組世帯数

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
生ごみ処理器 補助件数(電気式を除く)	20	12	9	18	17	22
ダンボールコンポスタの件数	171	173	180	214	244	239
ダンボールコンポスト基材 (竹パウダー)の件数	290	239	242	284	335	321
累計(件)	3,716	4,140	4,571	5,087	5,683	6,263

表 48 生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
世帯数(当該年度)	92	136	119	104	106	98
累計(件)	1462	1598	1717	1821	1,927	2,025

表 49 環境学習出前講座の実施回数

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
実施回数	35	31	3	-	2	25

表 50 クリーンセンター見学数

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
見学者数(人)	1,247	-	-	396	486	1429

表 51 新聞紙の行政回収量

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
行政回収量(t)	405	326	307	296	295	261

生活環境分野

民事トラブルによる相談件数が増加傾向にあります。民間と民間のトラブルの多くは公害問題として対応ができないため、苦情問題に対してどのような対応を行うか検討する必要があります。

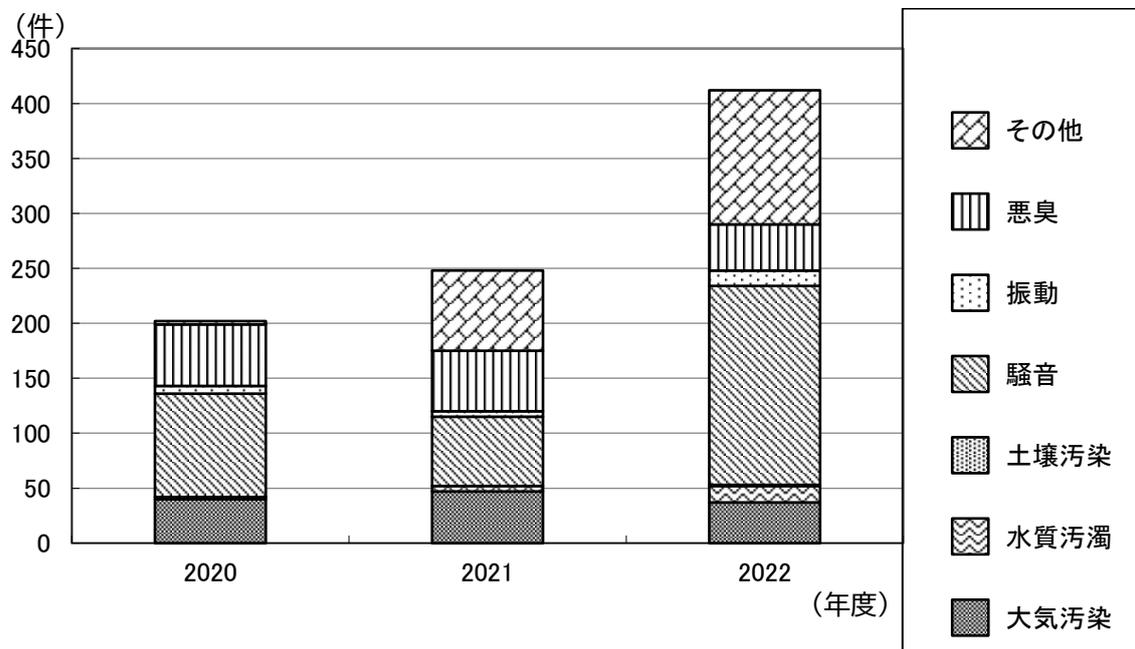


図 69 公害苦情 受付件数

表52 公害苦情内容一例

項目	苦情内容	対応内容
大気汚染	近隣で野焼きをされており、家の中に煙が入ってきて困っている。土日になされることが多いが、今行っているので話しに行っても欲しい。	対象者宅へ訪問し話を聞いたところ、農家であり、残った野菜くずや落ち葉を燃やして肥料にしているとのことだった。ごみを燃やす行為は法令で禁止されているため指導となるが、今回は例外行為にあたる農業における作業であるため、指導はできないが、近隣から苦情が入っているため、燃やす量と風向きを気にしてほしいと説明した。
水質汚濁	用水路に白い泡が流れている	現場確認したところ、藻に白い石鹼カスのようなものが付着しており、油のようなものや食べかす・肉片のようなものが若干流れていたため、オイルマットを敷き、下流に流れないようにせき止めた。 その後、上流を辿り発生源を特定。対象者に話を伺ったところ、精肉等を入れる棚を道路上で洗ったため、その水・肉片やそれによる油等が用水路に流れてしまったことが判明した。対象者へは、今後行わないように指導。後日、全ての油がオイルマットに吸着されたのを確認し、オイルマットを回収した。

土壌汚染	事例無し	
騒音	隣家の風鈴がうるさい。特に夜中がうるさく気になって寝られない。隣家は草の繁茂による虫やカエルがすごくて困っていたが、さらに風鈴の音が追加されて我慢できなくなった。	市では、民事上のトラブルに介入することはできないため、相談者自身で隣家の方に話していただく必要があると説明。
騒音・振動	解体工事の騒音・振動がひどく困っている。特に振動がひどく、家に帰ると仏壇の写真がずれていたりするし、体感的には震度3くらいに感じる。また、杭を打ち込む音もうるさくて困っている。 一度、建設会社に電話をしたが、近隣からも同様の苦情が入っているらしく、振動計を付けて欲しいという要望もあったとのこと。だが、騒音・振動は基準の範囲内だと机上の空論を述べられ対策をしてくれそうに無い。そのため、市に相談した。	現場確認したところ、相談者宅北の解体工事側で、騒音・振動測定結果表示板が設置されていた。 相談者宅前の解体工事場所敷地境界及び測定結果表示板下の敷地境界において騒音・振動を測定したところ、特定建設作業(解体工事の一種)における基準を満たしていた。 基準を満たしているため指導はできないが、施工業者へは、騒音・振動に関して近隣からご意見が入った旨を説明。 上記の内容を相談者に伝え、対応終了とした。
悪臭	対象アパートは下水道工事の際に切り替えておらず浄化槽のままである。最近住人が増えたからか、し尿の臭いがするようになった。以前に住人が多かった時もし尿の臭いがしていた。指導してほしい。	現場確認したところ、かすかに糞尿の臭いがした。その後、下水道課にて下水道切替状況を確認したところ、対象アパートのみ切替をしておらず周辺の住居は切替済みであった。日野衛生公社に浄化槽の清掃状況の確認を行い、東京都多摩環境事務所と下水道課へ内容を伝え、浄化槽の確認に同行いただきたい旨を説明した。浄化槽の確認のため、当該アパートの住居人募集看板を設置していた会社に、苦情内容と所有者に市へ連絡するよう伝えて欲しい旨説明するも難航。資産税課にて所有者の情報を確認し、苦情・現場確認内容と浄化槽の立会確認をしたいため市へ連絡して欲しい旨を書面にて通知。 →通知を受け、所有者が浄化槽の汲み取り清掃を業者に依頼した。 →上記の内容を相談者に伝え、対応終了。
その他	空き地の草が繁茂しているため、草刈するよう所有者に言って欲しい。	現場確認したところ、相談内容通り、空き地の草が繁茂していた。資産税課で空き地所有者を確認し、日野市空き地の環境保全に関する条例に基づき、所有者へ空き地の適正管理について通知した。

表 53 マナーアップのための啓発活動状況

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
喫煙マナーアップ キャンペーン	3	0	1	1	0	0
広報によるマナー啓発	8	8	8	8	4	2
犬・猫の飼い方講習会	4	3	3	1	0	1
自治会によるマナー啓発	2	2	2	2	2	2
計	17	13	14	12	6	5

大気・騒音・振動・放射線量については基準値を超えることはなく、環境問題は発生していませんでした。引き続き様々な問題について、情報収集・提供を行い、市民のより健康で安全生活の確保に努めます。

表 54 浮遊粒子状物質(SPM)年平均値

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021
日野市 (川崎街道百草園)(mg/m ³)	0.015	0.015	0.017	0.015	0.014	0.013
多摩部平均 (mg/m ³)	0.017	0.017	0.017	0.015	0.014	0.012
都平均 (mg/m ³)	0.023	0.023	0.019	0.017	0.016	0.014

表 55 二酸化窒素の年平均濃度

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021
NO ₂ (ppm)	0.015	0.016	0.015	0.013	0.013	0.012

表 56 雨の酸性度

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
年平均ph	5.2	5.0	5.1	5.2	6.0	5.94※	-
						6.02※	6.1※

※2021年は2カ所で測定、2022年は1地点で測定を実施。

表 57 横田飛行場の航空機騒音

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
騒音(Lden)	51.4	51.4	50.7	51.0	51.6	51.6

表 58 市内空間放射線量測定

(平均マイクロシーベルト/毎時)	2022年度					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ねんも公園	0.05	0.05	0.06	0.04	0.05	0.05
程久保運動広場	0.05	0.05	0.04	0.03	0.05	0.04
旭が丘中央公園	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.04
多摩平第一公園	0.04	0.04	0.04	0.03	0.05	0.05
小構公園	0.06	0.05	0.05	0.04	0.04	0.06
市民の森スポーツ公園	0.06	0.05	0.06	0.03	0.04	0.06
やと公園	0.05	0.06	0.07	0.05	0.06	0.08
南平公園	0.04	0.05	0.06	0.06	0.05	0.06

(平均マイクロシーベルト/毎時)	2022年度					
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ねんも公園	0.06	0.07	0.05	0.06	0.06	0.06
程久保運動広場	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05
旭が丘中央公園	0.04	0.05	0.04	0.04	0.04	0.03
多摩平第一公園	0.05	0.04	0.05	0.04	0.05	0.04
小構公園	0.06	0.07	0.07	0.06	0.06	0.06
市民の森スポーツ公園	0.06	0.06	0.06	0.06	0.07	0.05
やと公園	0.06	0.06	0.05	0.06	0.06	0.07
南平公園	0.06	0.06	0.07	0.06	0.06	0.06

付表 図表出典一覧

	データ名	ページ	出典
図 1	日野市全域立体地図		日野市
図 2	日野市地図		日野市
図 3	日野市環境フェアでの気候非常事態宣言（2022年11月6日）	1	環境保全課
図 4	日野市気候非常事態宣言	1	環境保全課
表 1	ナノスタンド（ウォータースタンド）設置箇所一覧	2	環境保全課
図 5	ウォータースタンド	2	環境保全課
図 6	協定締結式（2022年6月23日）	2	環境保全課
図 7	日野市役所全体の電気使用量	3	環境保全課
図 8	日野市役所全体のガス使用量	3	環境保全課
図 9	日野市役所全体の水道使用量	3	環境保全課
図 10	第3次日野市環境基本計画 施策体系図	4	環境保全課
図 11	気候市民会議の流れ	6	環境保全課
図 12	ミニバス・ワゴンタクシー年間利用者数	7	都市計画課
図 13	環境省グリーンカーテンプロジェクト啓発パンフレット	8	環境省
図 14	日野市防災ガイドブック・URL	9	防災安全課
図 15	ナラ枯れの樹木（コナラ）	11	緑と清流課
図 16	委託業者によるナラ枯れ被害木伐採作業	11	緑と清流課
図 17	里山の保全活動	12	緑と清流課
表 2	学校給食における地元野菜等利用率	13	都市農業振興課
表 3	給食野菜供給農業者数	13	都市農業振興課
図 18	日野市ウェルカムツリー等植栽補助制度のご案内	14	緑と清流課
図 19	自然観察会（12月）：しめ縄づくり作業の様子	15	緑と清流課
図 20	自然観察会（2月）：冬芽を観察している様子	15	緑と清流課
図 21	雑木林ボランティア講座（10月）：里山づくり講義の様子	16	緑と清流課
図 22	雑木林ボランティア講座（1月）：チェーンソーを使った実習の様子	16	緑と清流課
図 23	多摩・三浦丘陵広域連携トレイル図	17	緑と清流課
図 24	月間雨量・豊水期湧水量	19	湧水量および地下水位計測調査業務委託・調査報告書（緑と清流課）
図 25	日野の用水路	20	緑と清流課
図 26	清流ニュース vol.130	21	緑と清流課
表 4	下水道普及率	22	下水道課
図 27	水辺の楽校での活動（田植え）	23	緑と清流課
図 28	日野用水クリーンデー	24	緑と清流課
図 29	あさかわ写真コンクール（2022年度）	25	緑と清流課
図 30	八王子市との浅川流域連携事業	25	緑と清流課
図 31	釣り教室の風景（2022年7月～8月）	27	環境保全課
図 32	カワセミハウスで開催した展示会の様子（2022年8月）	28	環境保全課
図 33	小池復活プロジェクト（掘出作業）	29	環境保全課
図 34	水辺のある風景日野 50 選表紙	30	日野市
図 35	滝合小学校のビオトープ（浚渫作業後）	31	環境保全課
表 5	浅川の流量測定結果（過去の測定結果を含む）	32	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
図 36	バタフライガーデン略図（季節や状況により変更あり）	33	環境保全課
表 6	箱ワナ設置数・アライグマ及びハクビシン捕獲件数	34	環境保全課
図 37	日野市のごみ情報誌 エコー	36	ごみゼロ推進課
図 38	プラスチック類資源化施設見学の様子と中央図書館での啓発ブース（2022年度）	37	ごみゼロ推進課
図 39	ダンボールコンポストと普及啓発用のパンフレット	38	ごみゼロ推進課
図 40	明星大学デザイン学部生がデザインしたレジごみ袋	39	ごみゼロ推進課
図 41	市役所1階ロビーに掲示されたごみ減量ポスター	40	ごみゼロ推進課
図 42	浅川清流環境組合と3市による可燃ごみ処理施設の小冊子	41	ごみゼロ推進課
図 43	東京たま広域資源循環組合の広報誌 たまエコニュース	42	東京たま広域資源循環組合
図 44	エコセメントを材料としたエコセメントキャラクターの椅子	42	ごみゼロ推進課
図 45	多摩地域ごみ処理広域支援体制図	43	西多摩衛生組合
図 46	ポイ捨て禁止看板イメージ	45	環境保全課
図 47	春の市内一斉清掃の様子	46	環境保全課
図 48	秋の市内一斉清掃の様子	46	環境保全課
表 7	令和4年度市内一斉清掃実績	46	環境保全課
図 49	災害時、ペットと一緒に避難する際のお願い	47	環境保全課
表 8	河川・用水・湧水の水生生物の確認状況	48	日野市水生生物調査 調査報告書（環境保全課）
表 9	水生生物による水質判定	48	日野市水生生物調査 調査報告書（環境保全課）
図 50	二酸化窒素 24 時間測定結果	48	窒素酸化物調査報告書（環境保全課）
図 51	市で受け付けている 116 条に関する届出	49	環境保全課
表 10	道路交通騒音 騒音・振動測定結果	50	環境保全課
表 11	令和4年度公害苦情件数	51	環境保全課
表 12	横田飛行場に係る航空機騒音	52	環境保全課
表 13	騒音の環境基準	52	環境基本法
表 14	令和4年度光化学スモッグ緊急時措置月別発令状況（多摩南部地域）	53	東京都環境局環境改善部大気保全課
図 52	日野市一般会計決算額	58	日野市

図 53	二酸化炭素排出量（日野市全体）	61	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
図 54	部門別二酸化炭素排出量（日野市）	61	
図 55	CO2 基礎排出係数	62	東京電力ホールディングス㈱HP
図 56	日野市のエネルギー使用量	62	オール東京 62 市区町村共同事業「多摩地域の温室効果ガス排出量」報告書
表 15	公共交通機関（ミニバス・バス）の整備率	62	交通空白地域図（都市計画課）
表 16	都市計画道路の整備率	62	道路課
表 17	ワットチェッカー等貸出状況	63	環境保全課
表 18	省エネ診断の参加事業者数	63	環境保全課
表 19	公共施設の新エネルギー導入状況	63	環境保全課
図 57	「ふだん着で CO2 をへらそう宣言」宣言数及び CO2 削減量	64	環境保全課
表 20	市民農園等の面積	65	都市農業振興課
表 21	援農人数	65	都市農業振興課
図 58	日野市の農地面積	65	農林水産省作物統計（都市農業振興課）
図 59	日野市内の生産緑地面積	65	都市計画決定書（都市計画課）
表 22	市民農園等の面積内訳	66	都市農業振興課
表 23	「市」の開催日数	66	都市農業振興課
図 60	土地利用現況調査「森林」の割合・みどり率	66	東京都土地利用現況調査（都市計画課）
表 24	市が寄付や買取等で取得した樹林地面積	67	緑と清流課
図 61	一人当たり都市公園面積	67	日野市公園調書（緑と清流課）
表 25	多摩地域の一人当たりの都市公園面積（2022 年度）	67	東京都建設局公園調書
表 26	緑地信託面積	68	緑と清流課
表 27	緑のトラストへの寄付件数	68	緑のトラスト受付簿
表 28	雑木林ボランティア講座修了者数	68	緑と清流課
表 29	ウェルカムツリー、生け垣の助成件数	68	緑と清流課
図 62	浅川の平均河川流量・水位	69	国土交通省京浜河川事務所
表 30	浅川の流量測定結果（過去の測定結果含む）（再掲）	70	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
図 63	湧水地点の状況	70	国土交通省京浜河川事務所、日野市環境共生部
表 31	地域別に分けた調査地点数と湧水量	70	
表 32	総湧水量の経年変化（2011 年度～2022 年度）	71	湧水量及び地下水水位計測調査業務委託・調査報告書（緑と清流課）
表 33	湧水量ごとの地点数	71	
表 34	地域別に分けた測定不可能な地点数	71	
表 35	地下水揚水量	72	地下水揚水量一覧（環境保全課）
表 36	各用水路の水質分析結果	72	日野市水生生物調査 調査報告書（環境保全課）
表 37	第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	73	都市計画課、道路課
図 64	第二次日野市バリアフリー特定事業計画の透水性舗装整備状況	74	都市計画課、道路課
図 65	水辺に親しみやうるおいを感じる市民の割合	74	日野市市民意識調査結果報告書
表 38	水辺イベントの開催数	74	緑と清流課
表 39	「用水守」登録団体数	70	緑と清流課
表 40	「ビオトープづくり」の取り組み件数	75	緑と清流課
表 41	親水イベント参加者数	75	環境保全課
図 66	ごみ排出量・資源物排出量	76	
図 67	総資源化率	76	多摩地域ごみ実態調査（公益財団法人 東京市町村自治調査会）、日野市の清掃概要（ごみゼロ推進課）
図 68	ごみの行方	77	
表 42	ごみ量内訳	77	
表 43	マイバッグ持参率・レジ袋辞退率	78	大手スーパーでの出口調査
表 44	ペットボトル、発泡トレイの行政回収率	78	日野市の清掃概要（ごみゼロ推進課）
表 45	焼却ごみの組成	78	ごみゼロ推進課
表 46	焼却ごみの組成割合（湿ベース）	79	ごみゼロ推進課
表 47	生ごみ減量・資源化への取組世帯数	79	ごみゼロ推進課
表 48	生ごみリサイクルステッカー掲示世帯数	79	ごみゼロ推進課
表 49	環境学習出前講座の実施回数	79	ごみゼロ推進課
表 50	クリーンセンター見学数	79	ごみゼロ推進課
表 51	新聞紙の行政回収量	79	ごみゼロ推進課
図 69	公害苦情 受付件数	80	環境保全課
表 52	公害苦情内容一例	80	環境保全課
表 53	マナーアップのための啓発活動状況	82	環境保全課
表 54	浮遊粒子状物質（SPM）年平均値	82	東京都環境局
表 55	二酸化窒素の年平均濃度	82	東京都環境局ホームページ
表 56	雨の酸性度	82	環境保全課
表 57	道路交通騒音	82	環境保全課
表 58	市内空間放射線量測定	83	環境保全課

エコクマ、エコアラ（裏表紙の絵）

地球温暖化で棲んでいるところを追われ、東京都日野市にやってきたエコクマ。日野市の多摩動物園で生まれたエコアラ。地球温暖化に心を痛め、エコ活動を始めたよ。

2人で力を合わせてがんばるぞ。応援よろしくね！

日野市の環境を
守ろう！



令和4年度（2022年度）
日野市環境白書
日野市環境基本条例第18条に基づく年次報告書

発行：令和5年（2023年）9月 日野市

編集：日野市環境共生部環境保全課

〒191-8686 東京都日野市神明 1-12-1

TEL 042-514-8294

URL <https://www.city.hino.lg.jp>

身近な生きものと共生できる環境を次世代につなごう！